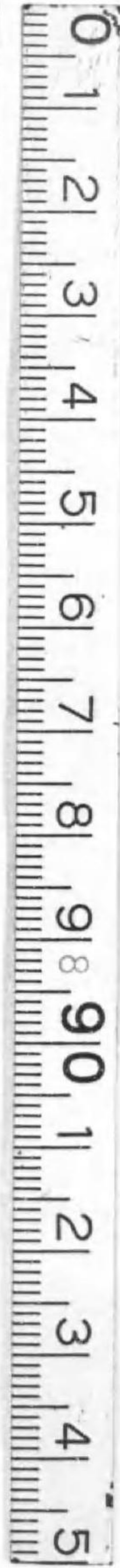


特 218

104

内宗郡津曹南



始



標商錄登



油醬上最

三

家本

渡部又左衛門

會津田島町



會津

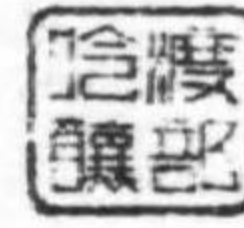
スイア

三渡部又八吟釀

會津田嶋町

紹酒

名譽
薰田海



電話 一 二 番
電略 (サカ)
振替東京七三三四番

特218
104



郡案内誌



定期運轉

若松—田島 針生—山口—只見
川路温泉行連絡

會陽乘合自動車株式會社

電話若松一〇〇五

田島 三〇

山口 五

序

我が南會津の地たるや、福島縣の西南隅にあつて、栃木群馬新潟の三縣に接し、山岳重疊、林木蒼鬱の間、其の廣袤實に二四三三方料を占め、風光絶佳にして、幾多の舊蹟を有し、而して原始的なる大森林、無盡藏なる天産礦物と相俟つて、資源包藏量の富饒は、天下の寶庫と稱すべきものである。されど極めて僻遠の故を以て古來南の山として桃花源洞たること幾百年、民庶衣冠古朴、氣質淳厚、唯だ花草に憑つて春秋を知るものも、亦往往にしてあつた。それで千古の美林は、神代ながらの新陳代謝に委し、勝概の區は、山霧溪煙の去來するあるのみであつた。時勢一變、近時交通機關の發達と、郡民不退轉の努力とは、漸次開發事業進捗し、南會勃興の氣運の横溢し來たつたことは、小職の欣快に禁ぶる克はざる所である。されど東京府や、大阪府、香川縣を凌ぐこと、五

二八方料、神奈川縣、佐賀縣に匹敵する程の本郡は、尙ほ幾多の開拓資
源を有してゐるのであつて、其の開發は、本郡民の利害休戚に、至大の
關係あるは勿論、従つて國富の増進上にも、影響する所が多いのである
から、之が開拓の一日も速かならんことを希うて已まない次第である。
我が南會津支廳、茲に省る所あり、乃ち本誌を編して汎く江湖に紹介
し、以て南會津開發の一助たらしめんとした。但だ倉卒の際稿を起し、資
料の蒐集充分ならず、真相を盡くし得ざるを遺憾とする。庶幾くは讀者
諸賢、小職等の微意を諒せられん事を。
編成るに臨み、資料を提供せられ、或は助言を與へられたる諸彦に對
し、厚く謝意を表するものである。

昭和十二年七月

福島縣南會津支廳長

富澤

清

昭和十二年七月

福島縣南會津支廳長

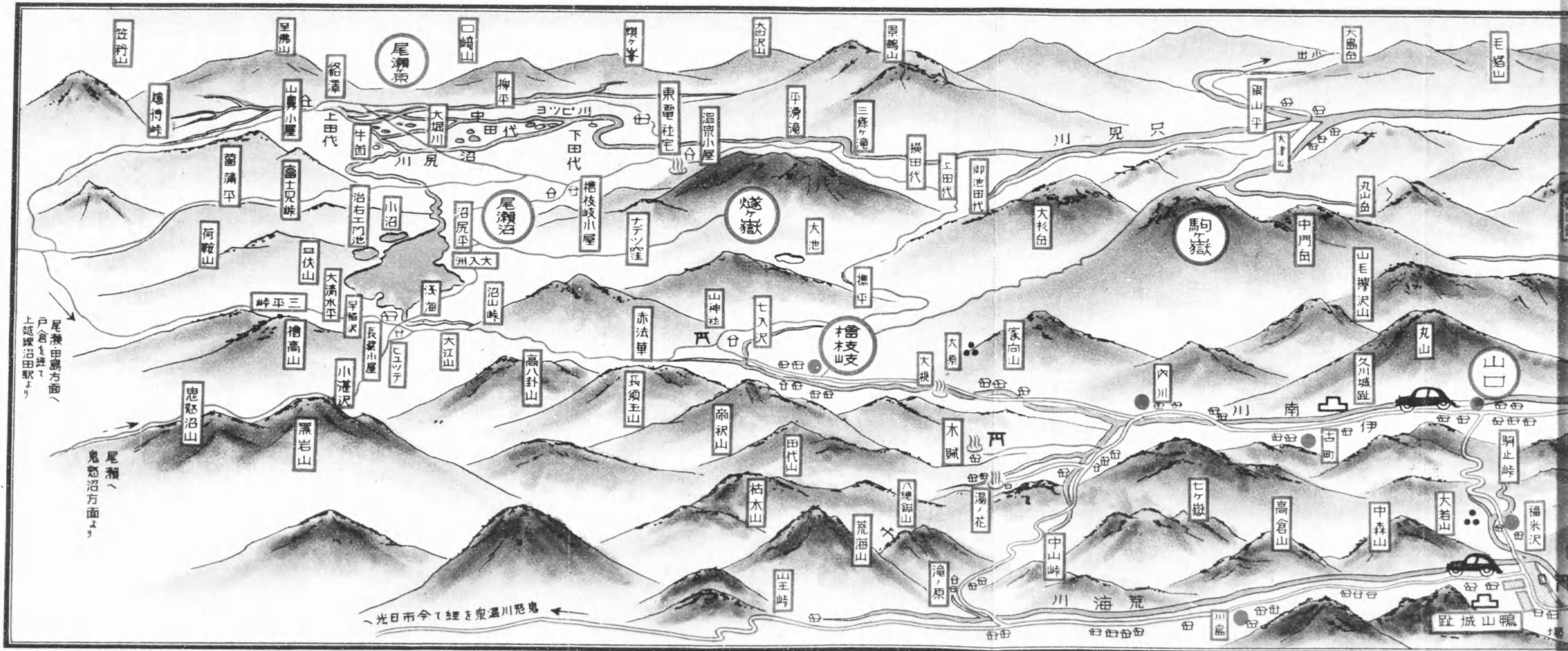
富澤

清

南會津史蹟景勝地圖



郡山福島方面より
会津若松を経て
日光尾瀬
方面



尾瀬沼方面
戸倉を経て
上越線沼田駅より

尾瀬へ
鬼怒沼方面より

光日市今て經る泉温川鬼

目次

寫眞説明

南會津支廳 田島町全景	一
田出字賀神社 田島祇園大屋臺	二
田島愛宕神社 永田橋	三
田島藥師寺 南山義民小栗山喜四郎之墓	四
物産の一部(清酒及萬古燒) 同(木工)	五
縣立農林學校 大木杉山	六
大杉林 旭橋堰堤	七
塔の巖 湯野上名所	八
檜原村成岡下全景 夫婦岩	九

檜澤愛宕山の景 上龍下水如活禪師……………一〇

郷社香取神社 田代山の遠望……………一一

大宮村山口の一部 伊南川魚淵の景……………一二

尾瀬沼高山植物……………一三

尾瀬沼より燈ヶ岳を望む 尾瀬平より至佛を望む……………一四

尾瀬沼附近 三條ヶ瀧の上流……………一五

梁取薬師堂 富田橋附近の景……………一六

郷社鹿島神社 朝日村黒谷古戦場……………一七

郷社若宮八幡神社 伊南川中島の景……………一八

南會津史蹟景勝地圖……………一九

沿革……………二〇

イ 地名ノ起源……………二一

ロ 明治維新前……………二二

ハ 明治維新後……………二三

位置及ビ地勢……………二五

イ 境域、位置、廣袤、面積……………二五

ロ 地勢、海拔、山河……………二五

交通及ビ通信……………二七

イ 交通……………二七

ロ 通信……………二七

農産業……………二二

イ 農業……………二二

ロ 林産……………二四

工業……………二七

イ 生糸、真綿、織物類……………二七

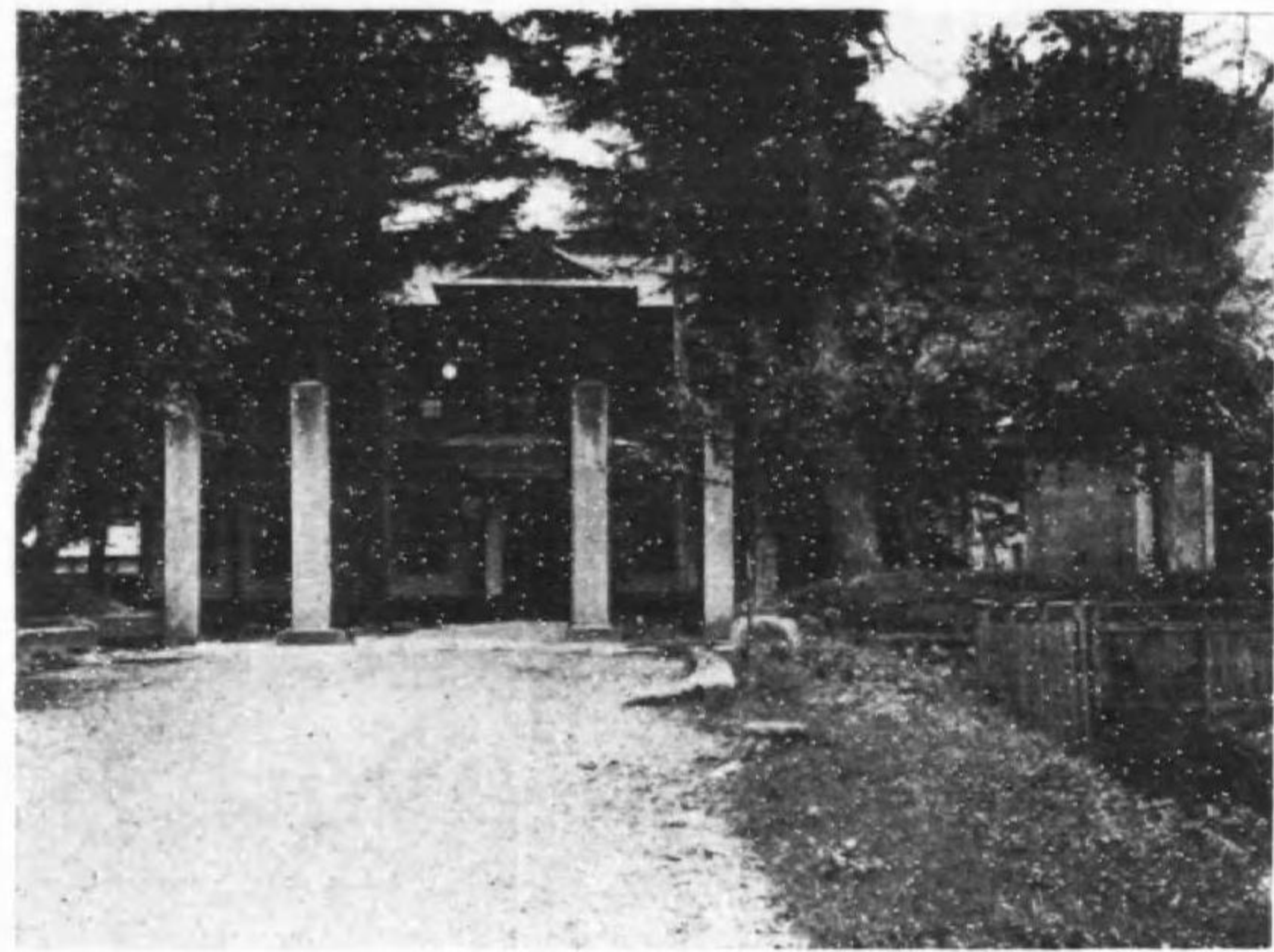
ロ 酒類、醬油……………二七

畜産	一八
鑛業	一〇
物産の主なるもの	二四
土産品の主なるもの	三五
官公衙學校	二六
銀行並に會社	二六
工場	二九
名勝舊蹟並ニ山村道場其他		
1 田島町	三三
2 鳴山城趾	三三
3 田出宇賀神社	三三
4 藥師寺	三三

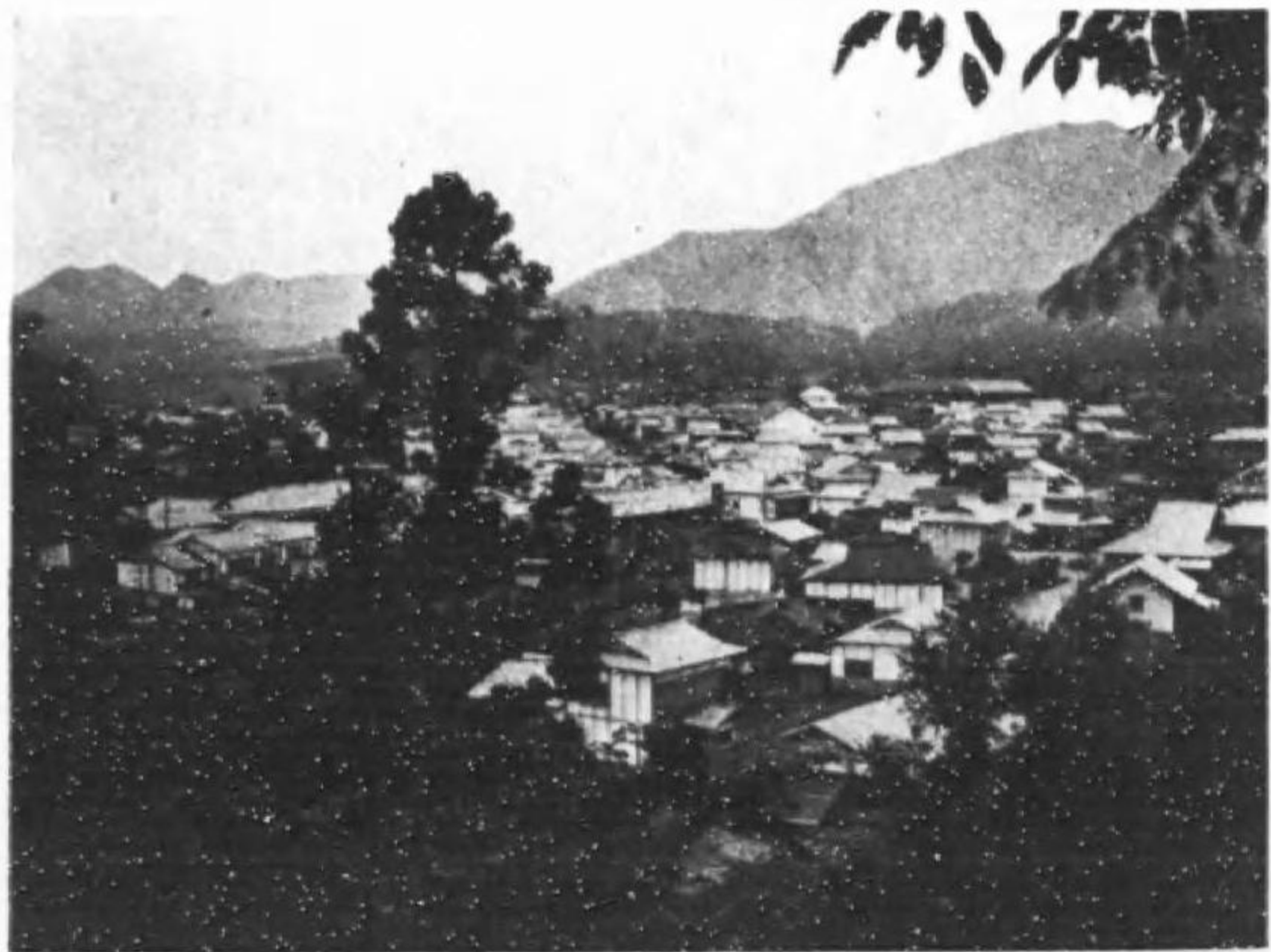
5 教林寺	三五
6 徳昌寺	三六
7 縣立田島農林學校	三六
8 保證責任南會津林産販賣利用組合	三七
9 南山義民ノ墓	三九
10 小野觀世音	三九
11 湯野上温泉	四〇
12 塔ノ峯	四〇
13 嶽觀音	四一
14 高倉神社	四二
15 楢原驛	四三
16 如活禪師ノ遺蹟	四四

17	縣立山村道場	四四
18	龍福寺	四八
19	湯ノ花温泉	四八
20	木賊温泉	四九
21	田代山	四九
22	古町	四九
23	善導寺	五〇
24	久川城趾	五〇
25	古町公孫樹ノ靈木	五一
26	香取神社	五一
27	山口	五三
28	觀音堂	五三

29	光明寺	五二
30	虚空藏堂	五三
31	鹿島神社	五三
32	新潟電氣株式會社	五四
33	若宮八幡神社	五四
34	大原鐘乳洞	五五
35	只見	五五
	國立公園奥日光尾瀬の仙郷	五六



南會津支廳



田島町全景



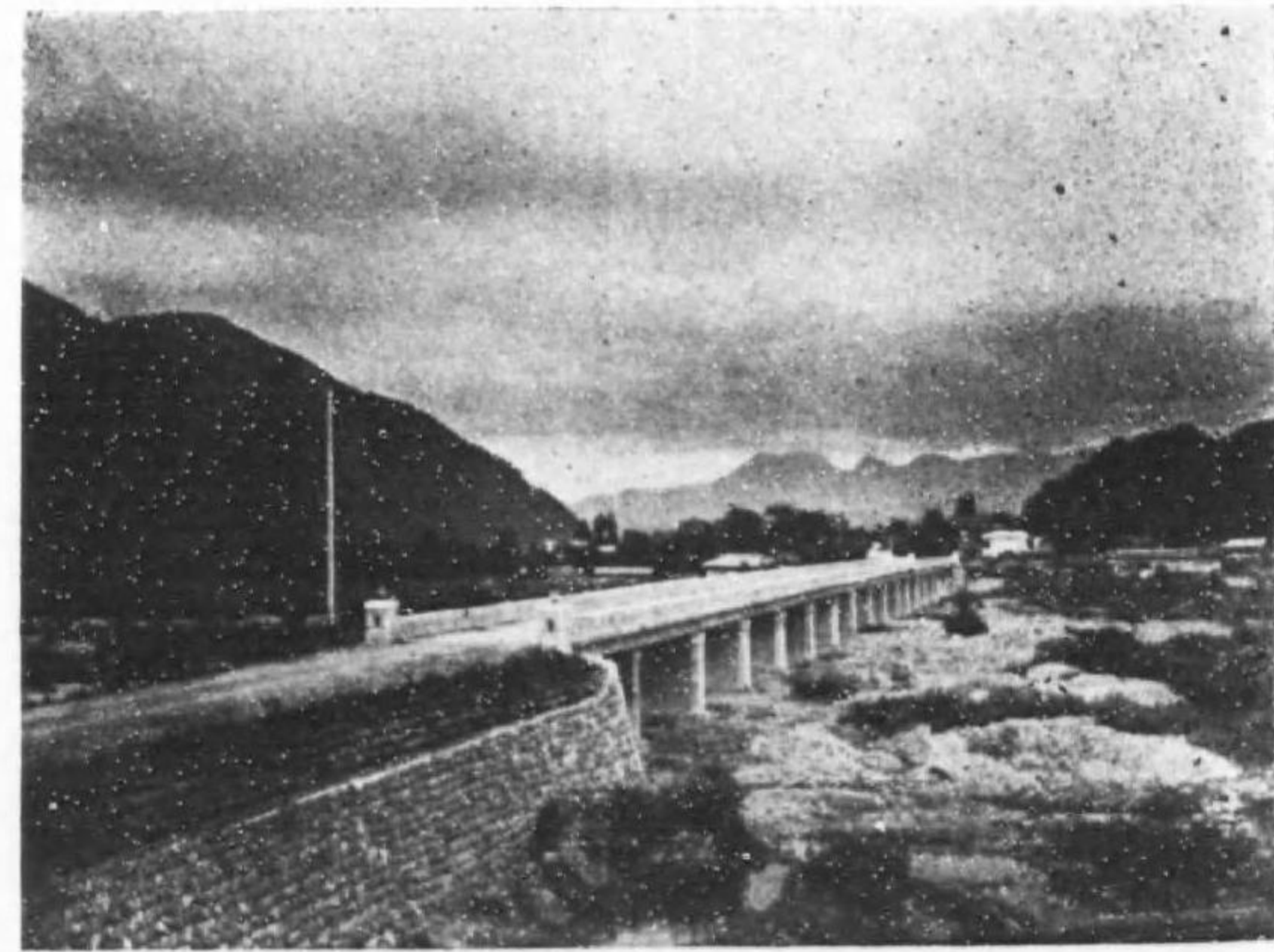
(町島田)社神賀字出田社郷



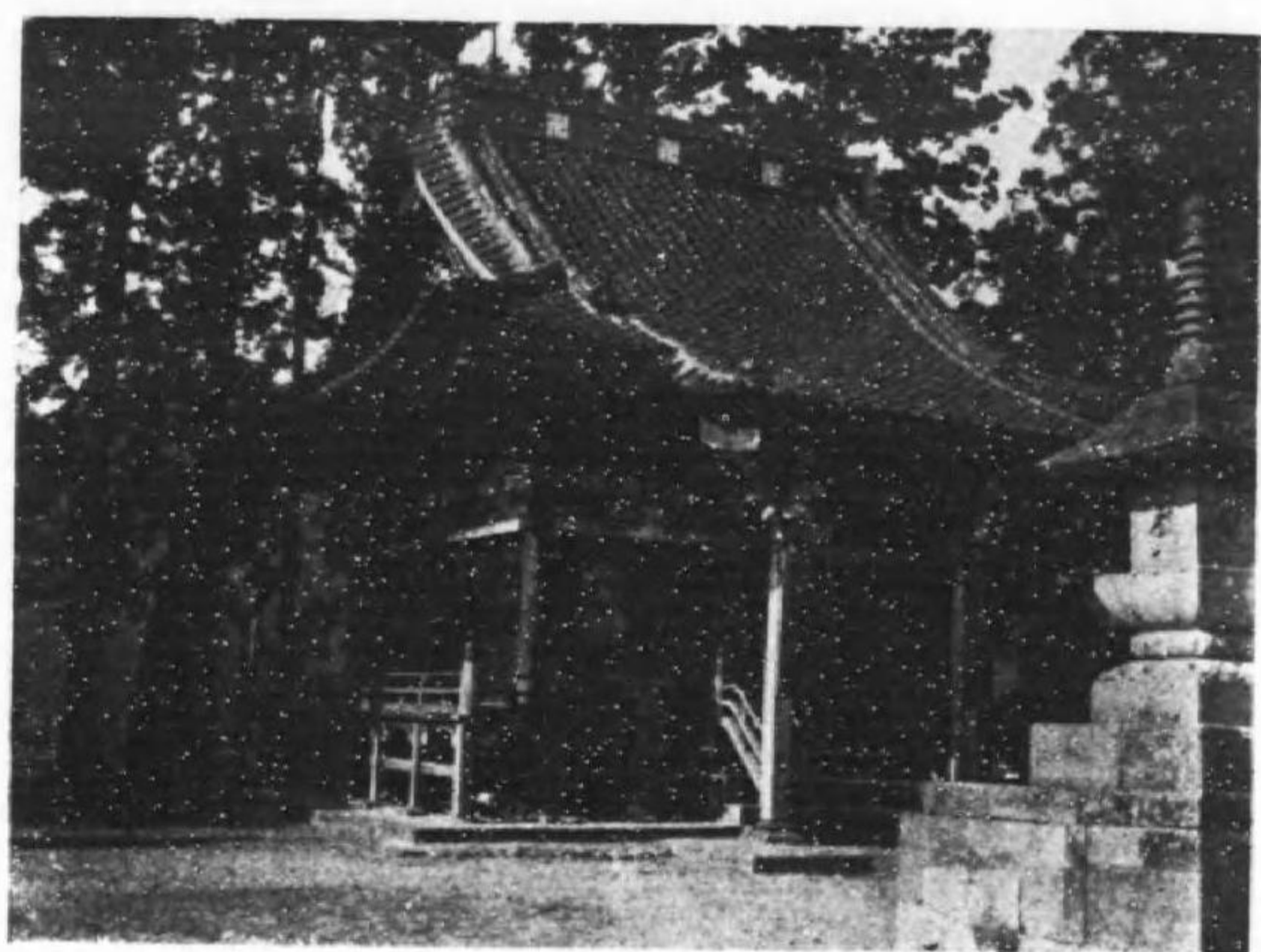
禮祭園祇島田



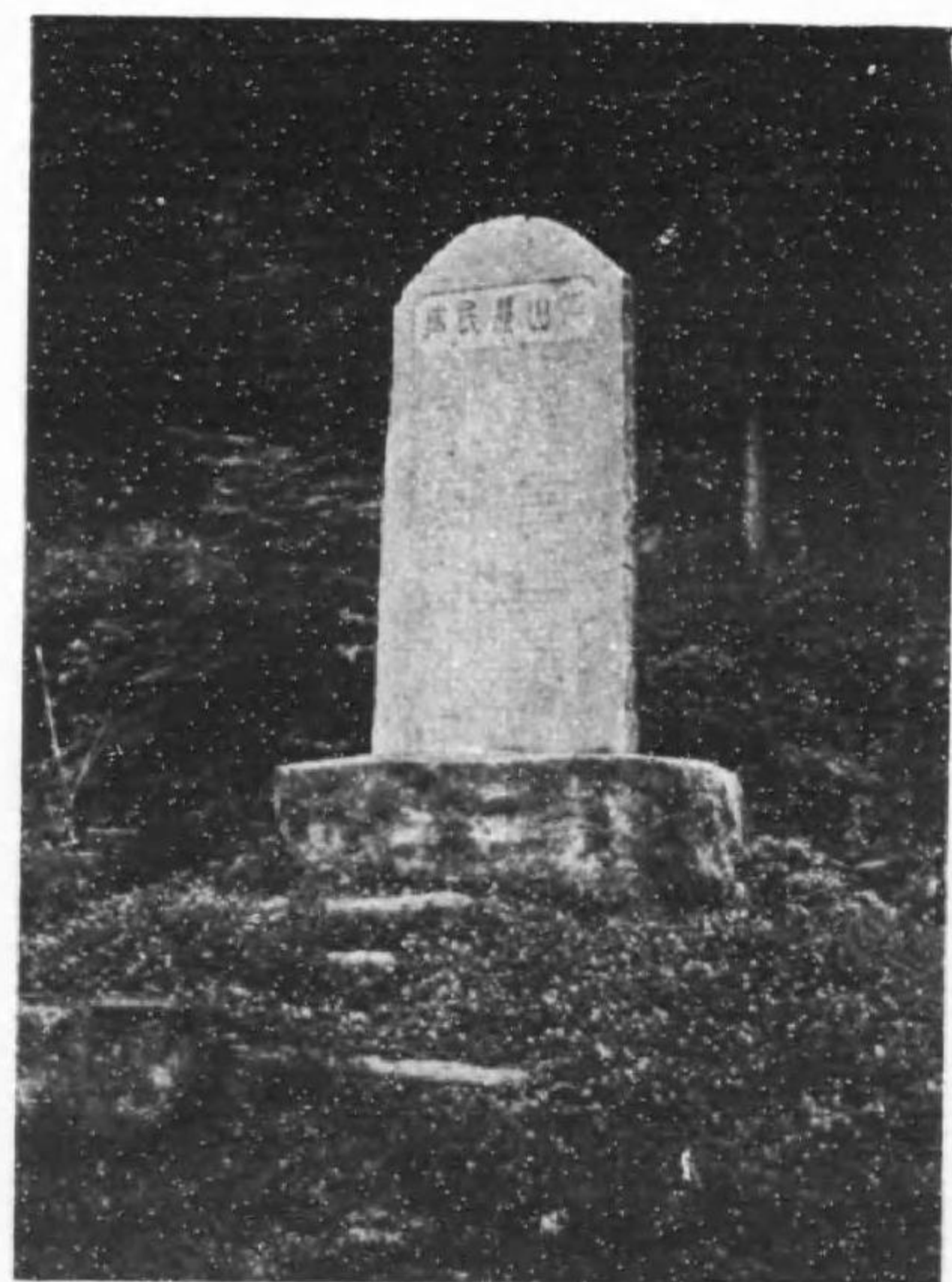
田島愛宕山（鴨山城跡の景）



橋 田 永



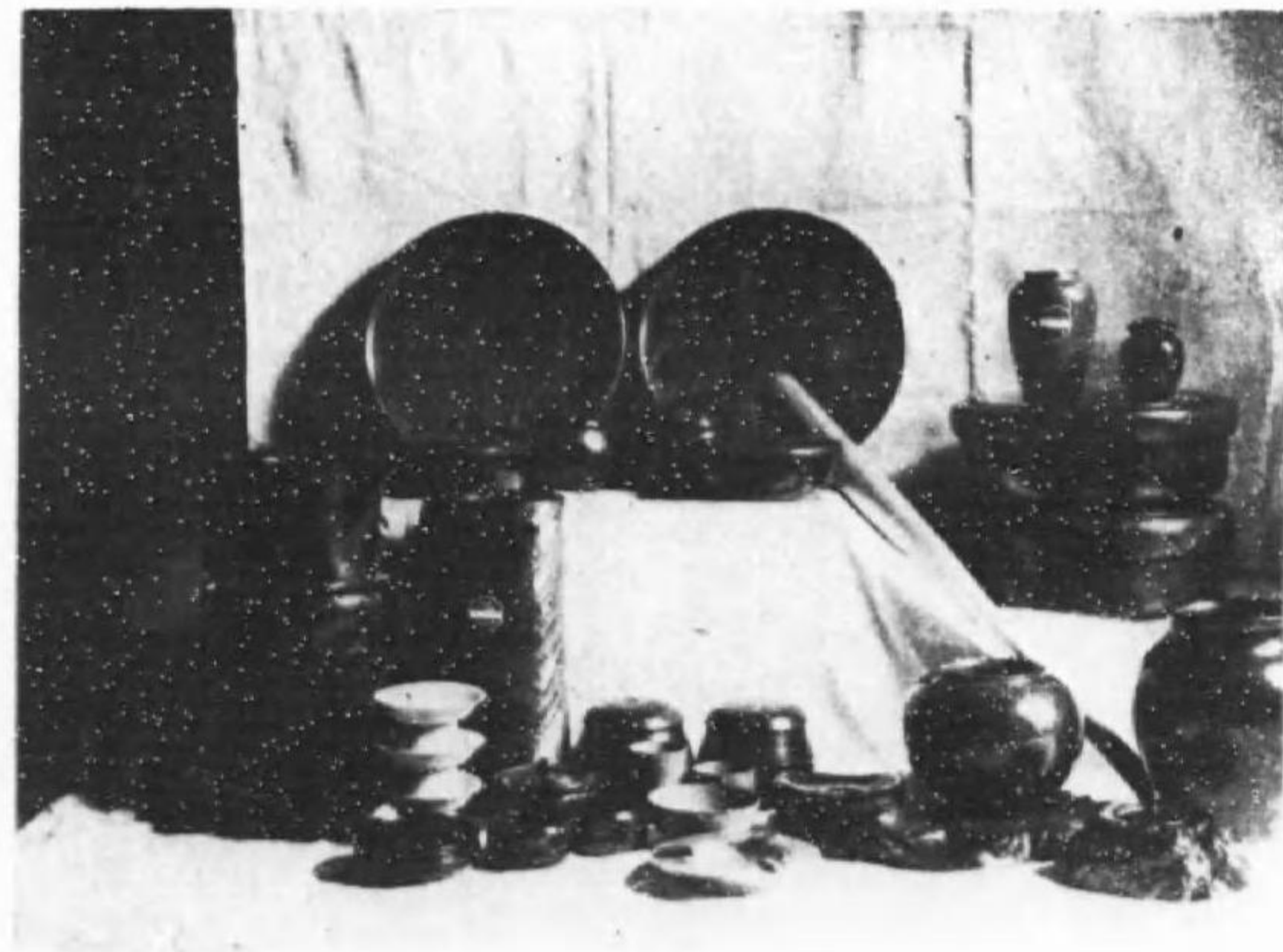
田島藥師堂



南義民 小栗山喜四郎之墓 (田島町)



(他其・いまんぜ・焼古萬び及酒清) 部一の産物



(工木) 部一の産物



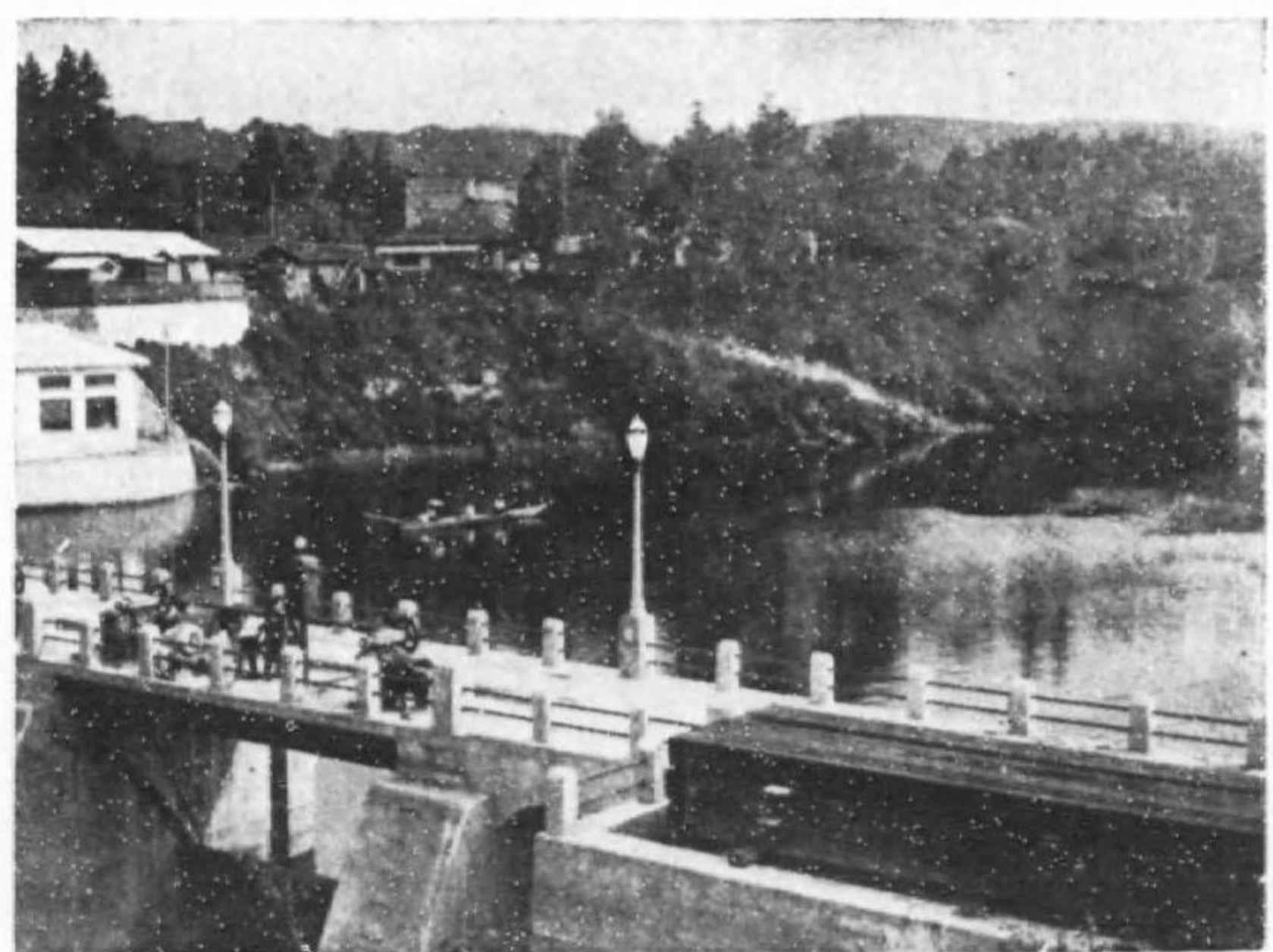
福島縣立田島農林學校



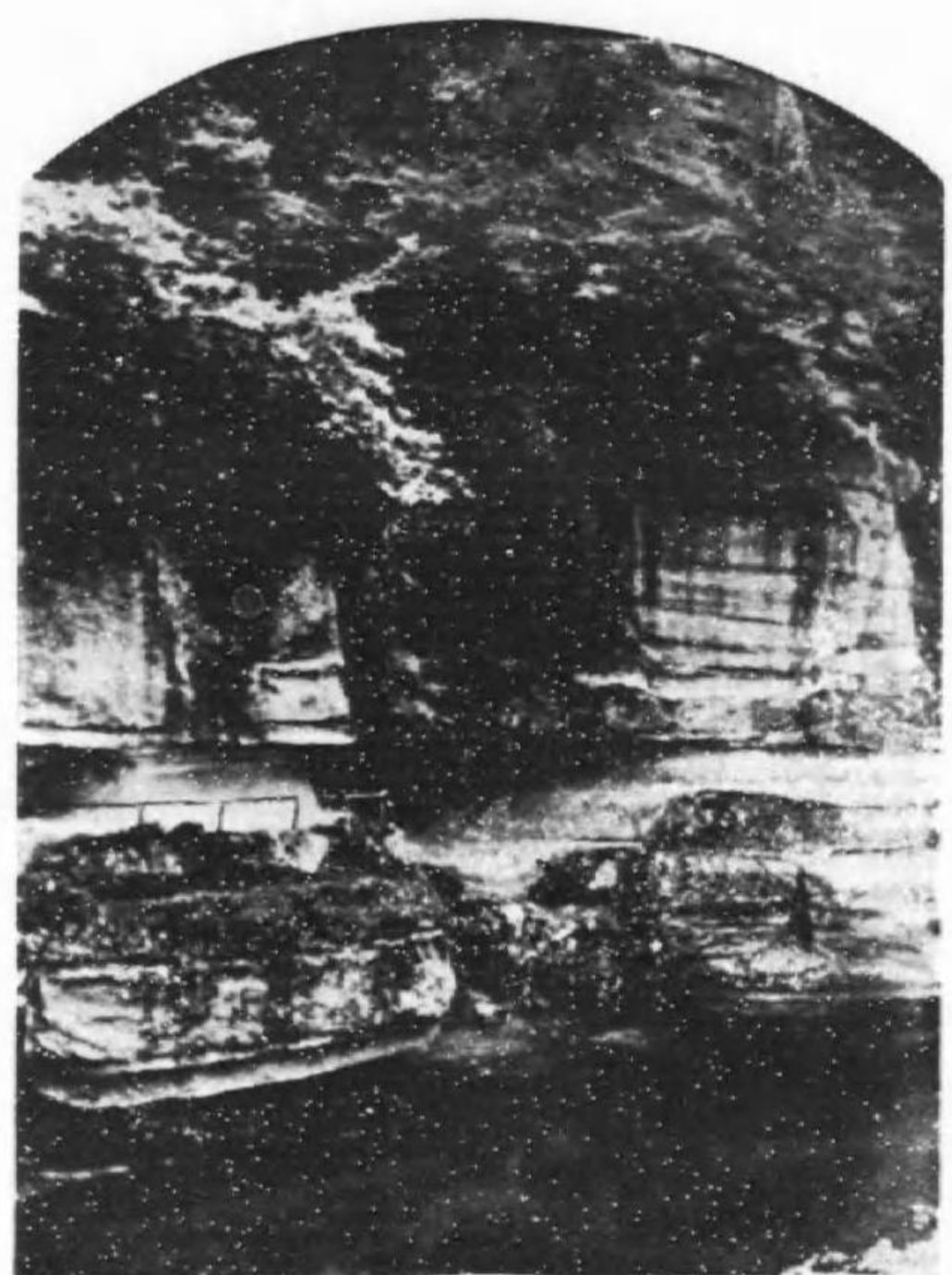
田澤山大杉山(田島町)



(村田 旭) 林 杉 大



(村田 旭) 堤 堰 橋 旭



塔ノへつり(江川村)



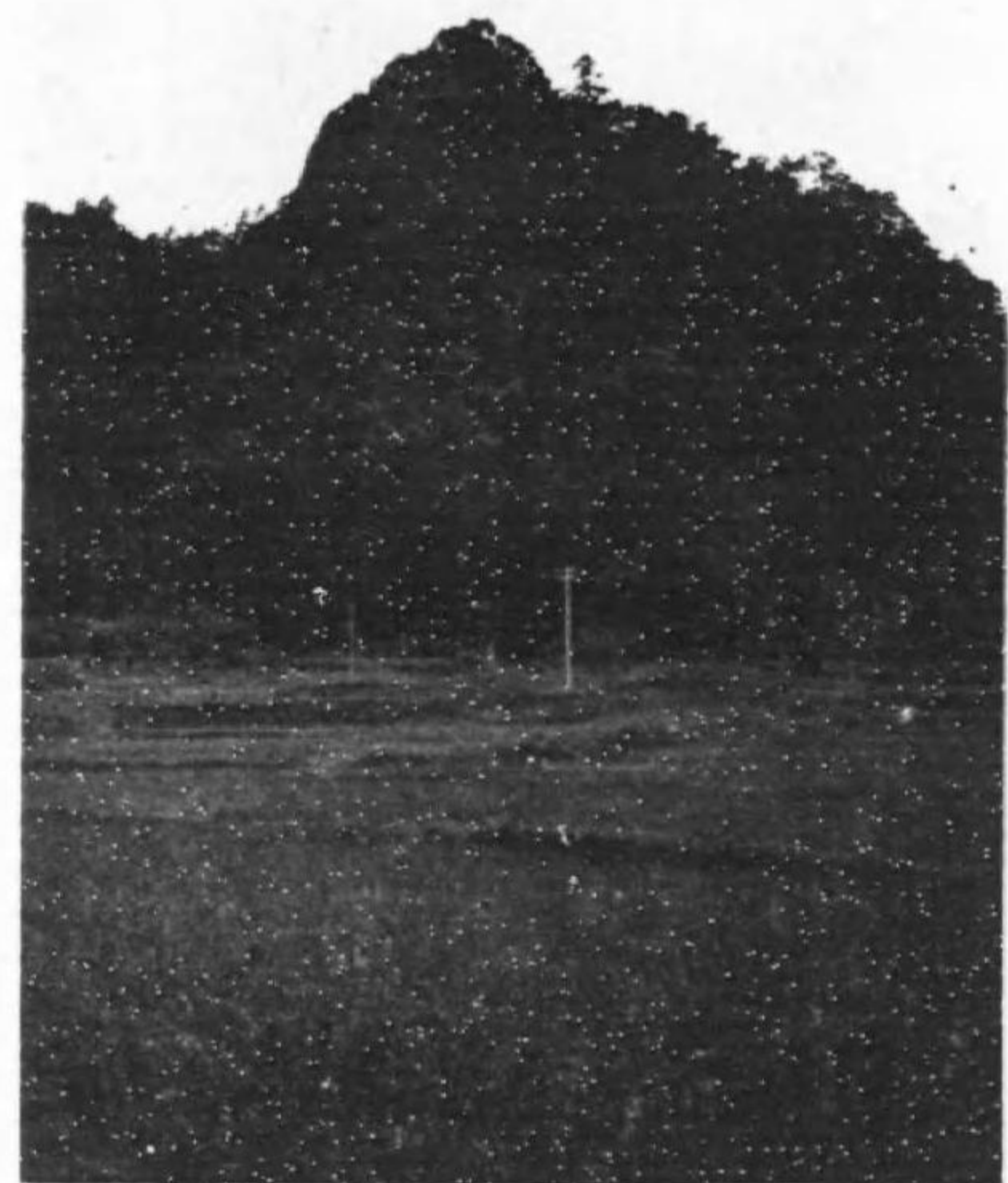
湯野上名所(江川村大川の沿岸)



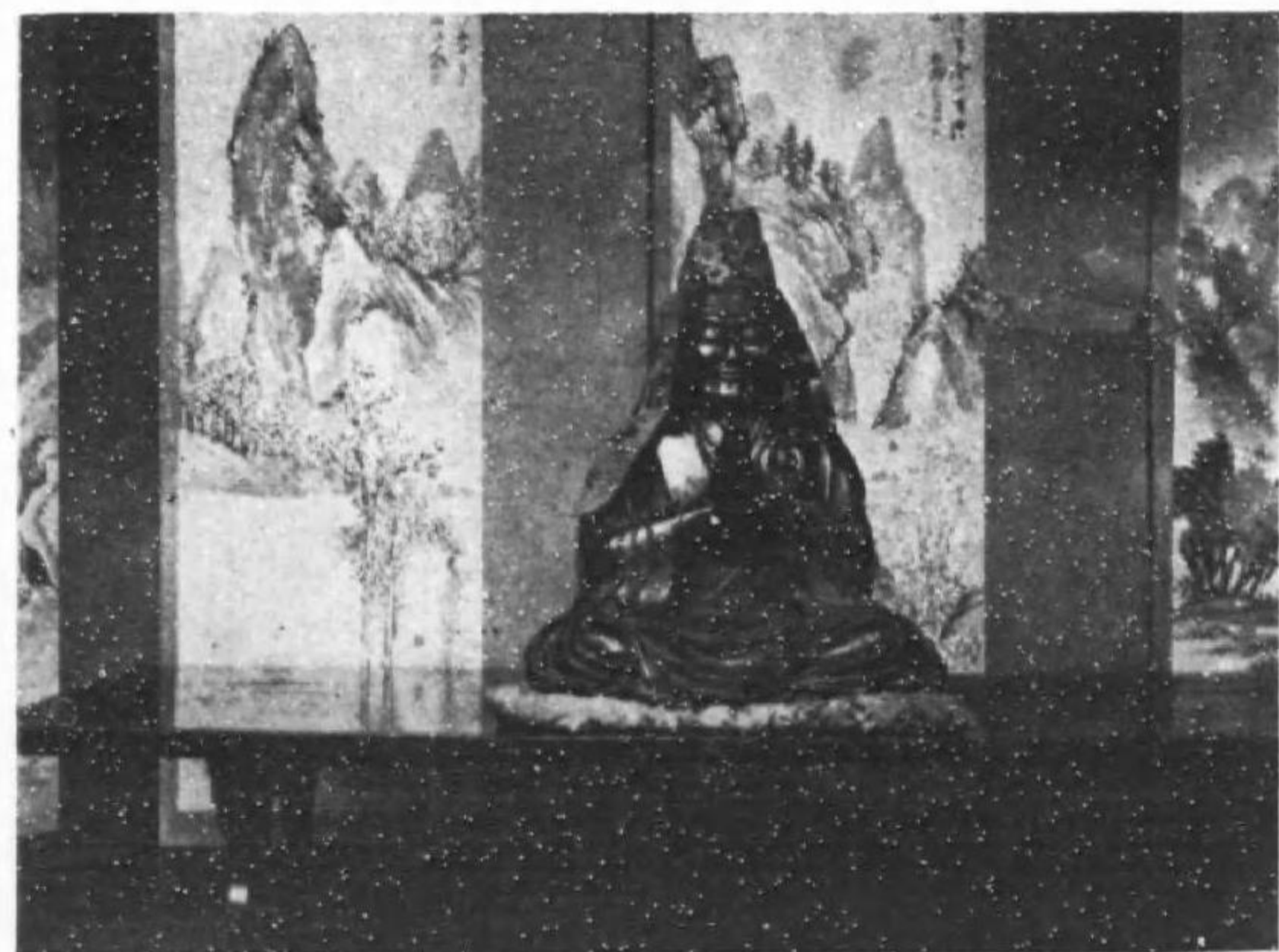
檜原村岡下全景



夫婦岩(江川村湯野上)



愛宕山の景（檜澤村黒澤）



（村海荒）像作自師律禪活如水下流上
（藏助平部渡）



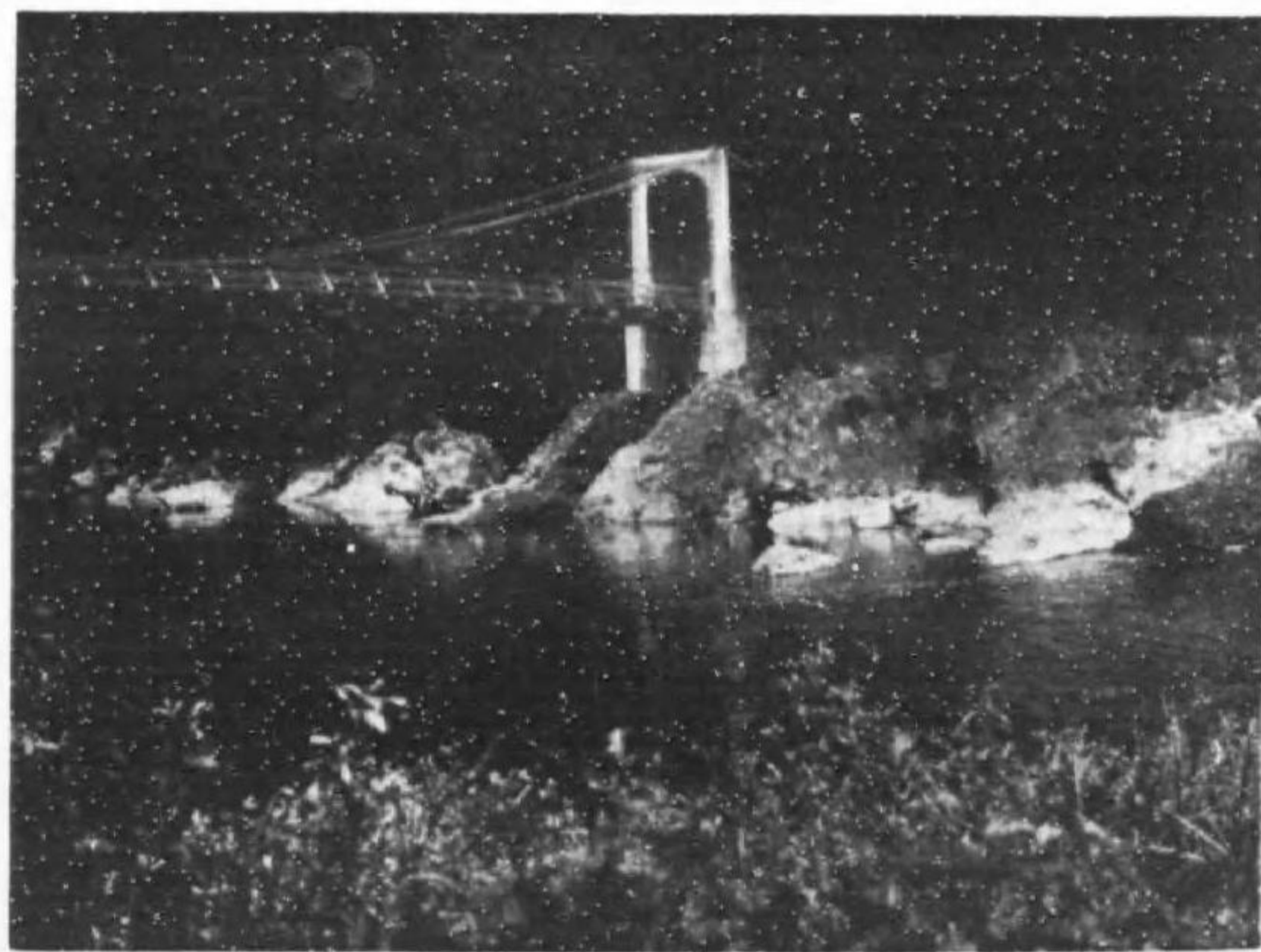
(村南伊) 社神取香 社郷



(村岩館) 望遠の山代田



大宮村山口の一部



伊南川魚淵の朝日村

高山植物
ヲゼサウ



尾瀬沼畔の高山植物

ナガハノモウセンゴケ

茅薺菜科

本植物ハ明治三十二年八月六日、本郡檜枝岐村出身植物學者星大吉氏ニヨリ、始メテ採集セラレタモノニシテ、同年八月十二日、川上瀧彌ト云フ農學士ガ、北海道廳ノ命ニ依リ、千島列島ヲ採集シ、擇提島アトイヤ山上ニテ、本植物ヲ採集シ、牧野富太郎氏ニ依リ前ノ如ク命名シテ發表セラレ、本邦ニテ同植物ガ殆ンド時ヲ同ウシテ發見セラレタルナリ。即チ星大吉氏ガ六ヶ月前ニ採集セルモ、學界ニ紹介サレタルハ後ナレバ、發見ノ功ハ川上氏ニ歸シタルナリ。然レドモ尾瀬地方ガ今日學者ニ知ラル、ニ至リシハ、全ク星氏ガ本植物ヲ發見サレタルニ依ルモノニシテ、其後植物採集家續々入り來リ、珍奇ナル植物ノ發見ニ努メ、今日國立公園トシテ、全國有數ノ景勝地トナルニ至リシナリ。

アンドンマユミ

衛茅科

本植物ハ昭和九年八月、星大吉氏ガ、檜枝岐村ヨリ伊南川ノ上流、栃木縣ニ通ズル參河林道ヲ進ムコト一里餘、參河澤ノ沿岸、喬木林中ニテ採集シ、京大小泉博士ニ送リテ鑑定ヲ請ヒシニ、同博士ヨリ朝鮮滿洲黑龍江地方ニ産スルイトマユミニテ、本州ニテハ初メテノ發見ニテ、植物分布上非常ニ興味アル事ナリト。然ルニ昭和十一年十月二日付ニテ、京大大井博士ヨリ、前記ノ如ク命名シテ、新種ナルコトヲ發表セラレタルナリ。

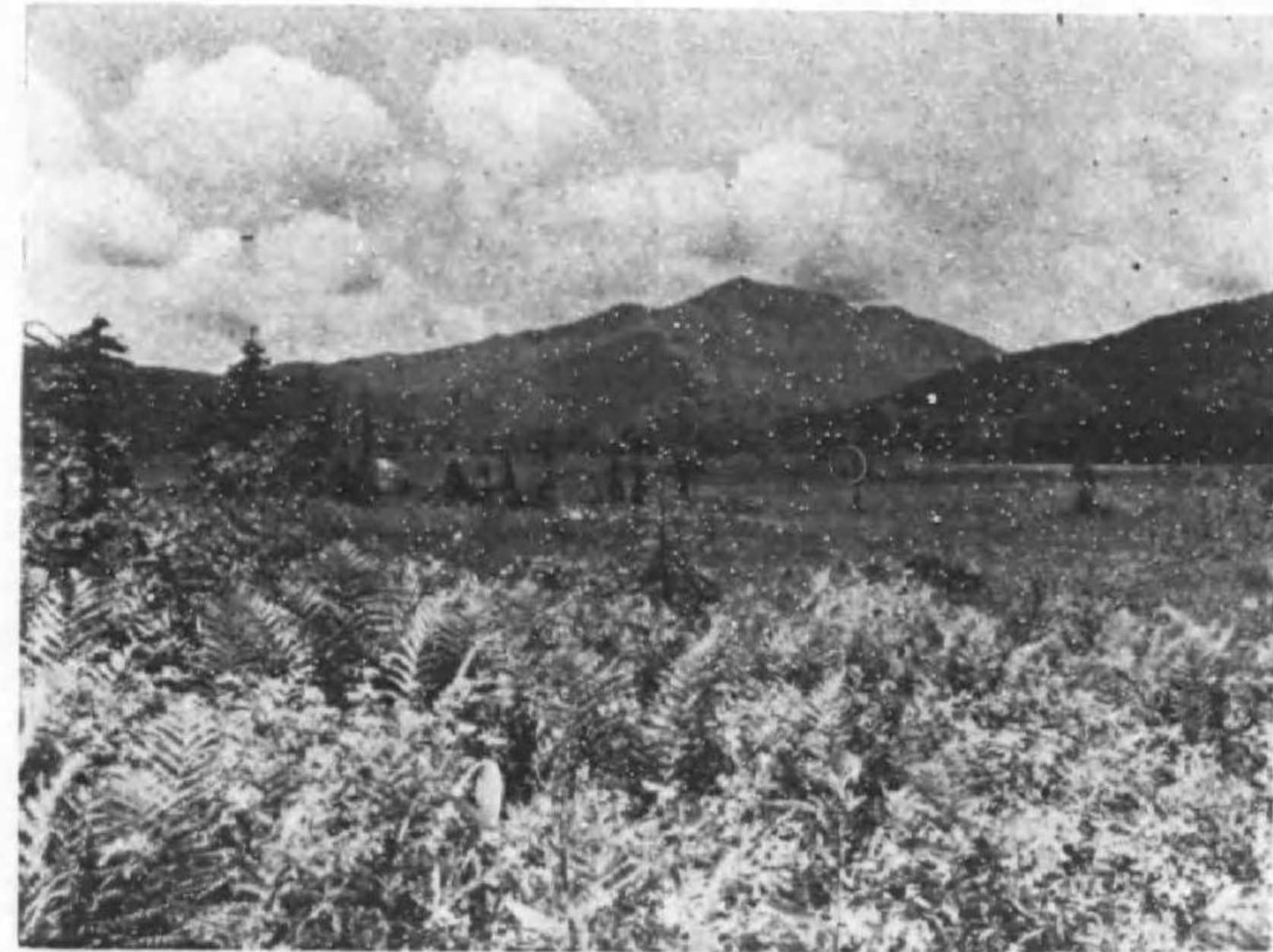
ヲゼサウ

百合科

本植物ハ明治四十年頃ヨリ、星大吉氏ニヨリ採集セラレ、其名不明ナリシガ、中井博士ニヨツテ前記ノ如ク命名發表セラレタリ。今日尾瀬平至佛岳以外ニ、其ノ産出ヲ見ザルモノニシテ、非常ニ珍奇ナル植物ナリト。



尾瀬沼より燧ヶ岳を望む



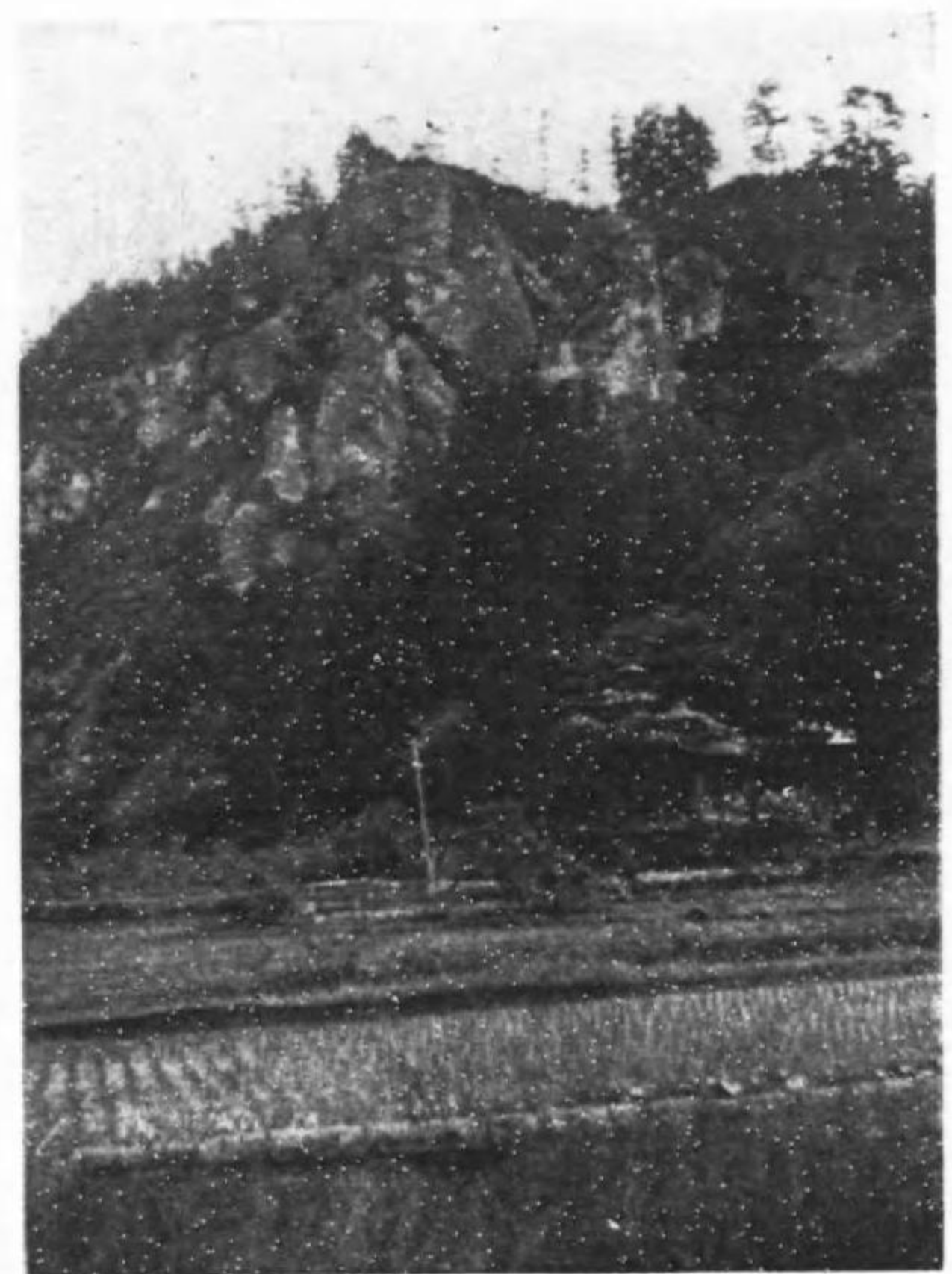
尾瀬平より至佛山を望む



尾瀬沼尻附近



三條ヶ瀧の上流(尾瀬沼々)



梁取薬師堂(小梁村)



富田橋附近の景(富田村)



(村田富)社神島鹿社郷



場戰古崎唱村日朝



(村北伊)社神幡八宮若社郷



(村梁小)景の島中川南伊

イ、地名ノ起源 會津といふ地名の起源は、崇神天皇の朝四道將軍を派して不逞の徒を征服し給ひしとき、大彥命（北陸の主將）御子武淳川別命（東海の主將）此の地に來り邂逅し給ひしかは、相津根乃國と號くと古史に見えたるを最古の記傳とす。而して相津を現今の如く、會津と云ふ文字に改めたるは、其時代未だ確たる典據を得すと雖も、相津と會津は會見の地たる意味を顯はすに於ては共に相同し、後ち會津の内山三郷を割きて耶麻郡を置き、尋て大沼郡を置き、後又河沼郡を置き、會津四郡の稱あるに至れり、明治十二年に至り會津郡を割きて南北二郡とせり、即ち南會津は是より治まる。

ロ、明治維新前 王朝時代に於ける此地領有の状態は明らかならず、口碑に依るに、源義宗朝臣東夷征伐の時、兵糧徵發の傳へあり、高倉宮以仁王潜啓の傳へある

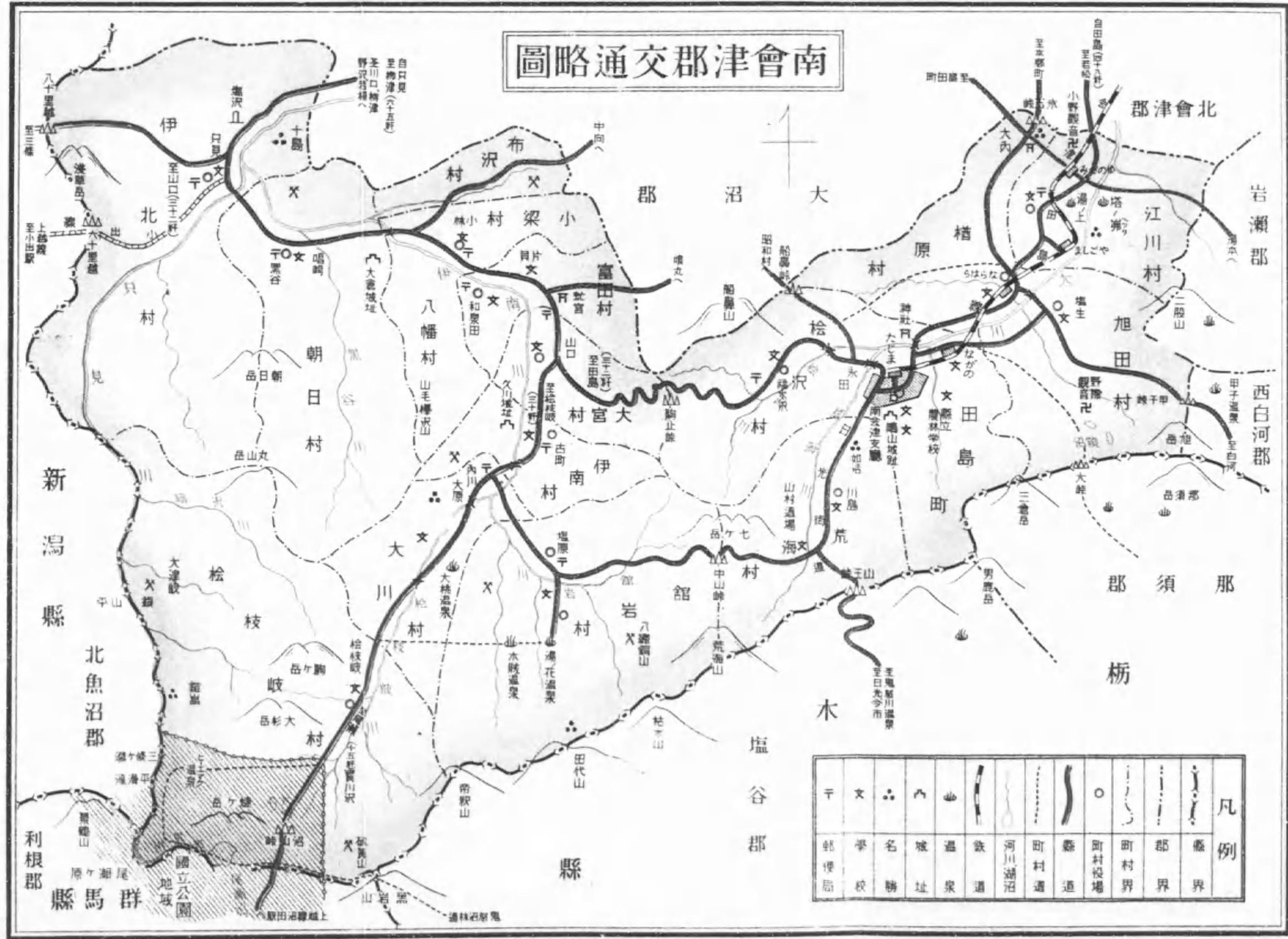
も當時當地方を所領知行せしは何人なるや、又莊園の區置も詳かならず、右大將軍頼朝覇府を鎌倉に開き總追捕使に任せらるゝに及びて戦功ある將士を擧て會津に封し、莊園を廢して領地を定め、芦名氏を黒川(耶麻郡黒川城趾)に山内氏を横田(大沼郡横田村中丸城趾)に長沼氏を田島(南會津郡田島鳴山城趾)に河原田氏を青柳(南會津郡青柳久川城趾)に居らしむ、之を會津四家と稱す、土地分領、居城典據の明白なるもの之を以て始めとす、而して芦名山内二家に係ることは他郡に屬するを以て之を省略し、長沼、河原田兩家の封地は現今の南會津郡に屬するを以て聊か簡叙すべし、長沼氏代々の居城は、田島町鳴山にあり(古城趾今尙ほ存す)河原田氏代々の居城は、伊南村青柳の城山に(古城趾今尙ほ存す)あり、共に一地方施政の本府にして、又防備の牙城たり、斯くて天正年間に至り、長、河兩家伊達政宗の爲めに征服せられ、兩家共に政權を失ひたりしか、豊太閤の威力徳望は伊達氏をして會津の占有を繼續久しからしめず、豊公蒲生氏を封して會津に食ましめ、後加藤

氏上杉氏代て所領知行し、徳川氏天下の政治を沙汰するに及て、保科氏を封して上杉氏に代らしめしめ、南會津郡の地は幕府の直領地となし、代官所を田島に置きて地方政治を掌らしめ、時に或は保科家に領地となして代務政治をなさしめたることありと雖も、幕府の直領地たる本體は失はず。

ハ、明治維新後 慶應三年十月十四日征夷大將軍徳川慶喜大政を奉還してより政權全く朝廷に歸す、是に於て新に諸般の制度を建て地方は天領即ち朝廷の御領地と公領即ち徳川家の領地とは府若しくは縣とし其他諸侯の領地は猶藩として知事を置き、藩主を以て之れに充てられしが會津は明治元年九月開城せるや若松坂下野澤に民政局を置き人民の慰撫統括と戦後の經營とを行ひ、翌二年五月二日之を廢して更に若松縣を置き田島出張所を設けらる、此時に於ける他藩の實質は依然封建制なりしが四年七月に至り全國の藩知事を東京に召集し悉く其の職を罷め新に府縣を置き郡縣の制とし府に知事縣に令を任じ茲に至りて漸く封建の遺風を改めらる。而して

明治九年八月若松縣は福島縣に合併せられ縣下を十七區に分ち各區に區會所を設け
 長を區長と稱す。明治十二年一月區會所制を廢して郡役所を置き郡治を統轄し奏任
 の長官を置く、當時の郡長即ち之なり。此時南會津郡九十九ヶ村を數村聯合して戸
 長役場を置き戸長を公選す。爾後明治十六年四月更に村治區域を改正して郡内九十
 九ヶ村を十三戸長役場とし官選戸長を置き判任とす、爾後明治二十二年四月町村制
 實施に至り町村の分合を爲し十八ヶ村とす。(元の村を大字とす)比較的小村は之を
 組合として十三ヶ所に役場を置き條例の規定に依りて名譽若くは有給の村長を置き
 専ら自治制に當らしむ、田島村は明治二十九年七月二十一日田島町と改む、南會津
 郡役所は大正十五年六月三十日廢され同七月一日南會津支廳と改稱し爾來支廳長の
 代ること八代、支廳長は奏任官を以て任せらる、廳吏現在十五人、地方改良發展の
 途に向ひ漸次進行しつゝあり。





専ら自治制に當らしむ、田島村は明治二十九年七月二十一日田島町と改む、南會津郡役所は大正十五年六月三十日廢され同七月一日南會津支廳と改稱し爾來支廳長の代ること八代、支廳長は奏任官を以て任せらる、廳吏現在十五人、地方改良發展の途に向ひ漸次進行しつつあり。

位置及ビ地勢

イ、境域、位置、廣袤、面積、

本郡は福島縣の西南隅に位し北は大沼郡北會津郡に隣り東は岩瀬西白河の兩郡に接し南は栃木縣鹽谷郡、群馬縣利根郡に西は新潟縣北魚沼郡及南蒲原郡に界し、東西十六里二三南北十二里一八面積百五十二方里を有し、其廣袤縣下に冠絶し、香川縣より大なり。

ロ、地勢、海拔、山河ノ形勢、

本郡の中央なる田島町は海拔一千八百五十一尺の高地にして北緯三十七度一一、東經百三十九度四八に位し、帝釋山（六千八百五十六尺）荒海山（五千二百六十三尺）駒止峠（三千八百九十四尺）等の山脈蜿蜒起伏して郡の東西を劃す、河川又東西に相別れ、其東部に於ける大川は源を荒海山に發し、檜澤、水無、加藤谷

鶴沼の諸川を併せ北下して阿賀川となり北會津郡に入り、其西部に於ける伊南川は檜枝岐、館岩の二川を併せ伊北村に到り、源を尾瀬沼に發し數多の谿流を合せ來れる只見川と合し東折して大沼郡に入り、終に阿賀川に合して新瀉縣下に入り北海に注ぐ、又山嶽としては、隧ヶ嶽は郡の西南隅に峙つ高峰にして其脈東北に走り、駒ヶ嶽の崢嶸と相對峙し、他の諸高山に連り起伏の狀波濤の如く十數里の間に蟠る、三倉山は下野の國境に聳え東に、三斗小屋峠あり、西に大萱峠あり、此脈西に延びて家老山、男鹿岳、等となり、又山王峠、荒海山、長峠、田代山、赤安山等の諸峰は相連りて下野及上野の國境を劃す、大鳥岳は越後の國境に峙ち其脈北に進みて朝草岳、赤柴山、狸森等に連る、北方の諸山は蘆ノ倉、轉石峠、舟ヶ鼻、白森、氷玉峠等にして大沼郡の境に連れり、七森山、保城山は郡の中央に峙ち其脈西に走りて八瀧、駒止峠の諸山に連絡せり。

交通及通信

イ、交通

會津街道沼田街道の通じたるは王朝時代よりの如く中仙道より會津に至り越後に通ずる要路として存在し、治承四年高倉宮以仁王の平清盛を討ち給ひしも宇治に一敗し、源頼政戦死するに遇ひ潜かに木曾を経て沼田より尾瀬沼の岸に沿ひ檜枝岐村に入り給ひ、館岩村より中山峠を越へ大沼郡に入らんとし、檜原村大内の地に宮を造營し、暫時會津地方の形勢を窺はれ、更に退きて駒止峠を越へ大宮村に出で、伊北村より越後に出でられたる古跡各地に多し、其の後戦亂に免れたるもの、來り住みしこと多かりしが如し。道路は總て漸く人馬を通ずるのみなりしが、會津街道は若松市材木町より大沼郡本郷町、氷玉岡村を経て本郡檜原村大内倉谷を経て倉村より田島町長野に入り荒海村を経山王峠を越へて栃木縣今市町に至り東京に通じた

るを以て若松東京間の往來常に絶へず會津侯亦屢々此の地を通行せられたりと云ふ
會津街道は三島縣令時代（明治十七年八月）に大土功を起して成れる會津三街道
路の一にして若松より分岐し大川に添ふて南上し山王峠に於て栃木縣縣道に接続し
同縣下今市に通ず、此の行程若松より田島迄十二里、田島より今市迄十八里あり、
會津地方より關東地方に通ずる最捷路なれば日本鐵道開通前は日光、古峰ヶ原、東
京行等の旅客の通行頻繁なりき、往年野岩鐵道の假免狀を得たるは此の線路にして
昭和十七年には完成の見込なり。縣道は河沼郡に於て越後街道より分岐し只見川に
添ふて上り更に伊南川流域を南進し檜枝岐村を経て群馬縣に入る之を沼田街道と稱
す。越後街道たる里道は田島町に於て會津街道より分岐し檜澤村を經、駒止峠を越
へて大宮村に至り沼田街道に合し更に伊北村叶津より岐れ八十里越を經て新潟縣下
三條に達す。右縣道は六郡の幹線にして此の外各里道は悉く此の幹線に連絡し車輛
の便ならざるはなし。針生街道は本郡東西部の咽喉部にして貨物の軍輸旅客の交通

頻繁を極むる要路なるも往年改修前は幅狭く傾斜急峻にして屈曲迂迴多く交通上不
便尠からず、地方經濟上の損失は勿論人文の發達をも沮害するものあるを以て、郡
長山内英助縣會議員川原田盛美の二氏奔走盡力明治三十九年度に於て工費貳萬六千
九百二十五圓を支出し同年十月起工し翌年工を竣り海拔三千八百尺の駒止峠の險亦
車馬を通ずるに至れり。然れども深山幽谿漸く新道を通じたるのみにして交通上の
支障尠からざるを以て猶ほ改修の必要を生じ明治四十三年度に於て工費壹萬六百九
拾五圓參拾九錢を支出し同年六月工を起し翌年二月竣功せり、茲に於て幾分交通の
難を免れたりと雖も、未だ巨巖砂礫歩行を妨ぐるものあるを以て昭和四年二月十七
日再び工を起し同五年十月七日竣功此經費五萬五千四百貳拾圓なり、之れに依て交
通の便益甚だ大となれり。

荒海村より館岩村に通ずる中山峠は昭和七年七月二十日改修の工を起し同九年十
二月三十一日竣功せり、其經費三萬九千貳百圓なり。田島より榮富、針生、糸澤迄

の自動車が開通せられしは大正十四年十一月廿五日にして漸く田島近傍の交通便となれり、自動車の駒止峠を開通せしは前記工事完成後にして、此爲本郡東西部に於ける各種事業の進捗を見るに至れり、猶ほ中山峠は貨物、乗用の兩車通じて西部南方に於ける便利益々多くなれり。

本郡に於ける自動車業者は二九、普通車は六八、貨物自動車の許可せられしは昭和二年六月二十七日なり、斯くて南會の寶庫は開かれ都人士の來遊其他に便になりたりと雖も冬期間は全く自動車の交通杜絶するが爲其の不便言ふ許り無し。將來は此點に着眼して交通の速に便ならんことを考慮すべきものなり。

汽車は岩越線が大正三年十一月に通じ會津線の内田島線は若松より湯野上迄昭和七年十一月に開通、湯野上より田島迄は昭和九年十二月に開通せり。茲に於て南會の寶庫も漸く開發されんとする機運に向ひ、猶ほ田島より荒海村を経て栃木縣今市町に通ずる野岩線は昭和十七年完成の豫定なり、かくする時は從來の日光古峰ヶ原

東京行等の行程は極めて便利となるべし、亦新潟縣小出より本郡伊北村只見を経て本縣大沼郡川口に通ずる路線は現在工事中にして完成の曉には本郡西部に於ける交通は勿論經濟上に於ても啓發される所多かるべし。

□、通 信

本郡に於ける通信事業の施設は明治五年七月一日田島、靜川局に設置され驛遞局と稱されしを始めとし爾來豊成、熨斗戸、檜枝岐、布澤、大倉、叶津、等に設置せられしも改廢せるものあり交通の便備はらざるため冬季積雪の候貨物運搬の如き人肩馬背に倚りて之を辨ずるを以て各種郵便物の滯滞あるを免れず。殊に郡の中央に横はれる駒止峠は積雪丈餘に及び交通杜絶することあり、山頂に交換所を設けて送達の進捗を圖りつゝありと雖も、重要事項も其進行を阻害せらるゝこと尠からず、近時電信事務開始せられ漸次其の難を除かれつゝあれとも未設の個所もありて完璧を期すあたはず。電信局は田島、檜原、彌五島、江川、靜川、伊南、山口、和泉田、

小梁、黒谷、只見、大川等にして電話は昭和三年二月十一日田島若松間の公衆電話を架設せられしものを始めとし、昭和九年十月三十日田島山口黒谷間設置され昭和十年六月二十日田島大川古町静川間に、同六月二十五日には田島和泉田小梁間に、次で同十一年五月三十日には田島檜原江川間に架設され漸く東西通信の便を見るに至れり、然れども山間部は未設個所多くして急用の場合其の恵みに浴する能はず可及的に此の不便より脱せん事を計るべきなり。

農 産 業

イ、農 業

本郡産業中最も重要な位置を占め一般殆ど本業に従事せざるものなし、然れども山間の地形、天候の冷害等他の地方に比し天然に恵まれず、近時稍々之が改良に意を注ぎ農業教育の普及を圖り鋭意開發指導に努め漸次發達の機運に向ひつゝあり。

本郡は廣袤百五十二方里を有すと雖も、四圍山嶽を以て蔽はれ、從て耕地面積少く至る所原野點在し農耕に適當なる地域頗る多きを以て水田に或は畑に開墾し其の利用方法を講せば將來大いに光彩を發揮するに至らむ。本郡の耕地面積は田二千四百八十一町九六、畑三千七百三十九町七七にして農家戸數一戸に付約一丁一反六畝なり、米は檜枝岐村を除く其他全町村中檜澤、旭田、田島、檜原、富田の順位にして全部にては四萬八百七十石の收穫。麥は檜原、旭田、江川、田島（大麥）田島、檜原、檜澤、荒海（小麥）の順位にして全郡收穫高四千八十石なり。其他大豆四千貳百七十一石、人參一萬七百四十六。葉煙草は荒海、田島、江川、檜原、旭田の五ヶ町村に栽培し其收穫は二十六萬八千四百五十二にして本郡東部に於ける農家の重要收入なり生繭は全町村之を營み其の順位は田島、大宮、旭田、富田、朝日の各町村。其全郡收購量は七萬三千百九拾八。蠶種は伊北の朝日、小梁、富田、大宮、荒海の各村にのみ製造され其の量は四萬三千二百三十二瓦。養蠶業は從來本郡

の最も盛んなる副業なりしが近年生糸の暴落相次ぎし爲之を營む者漸次僅少となり、以上の如き收購を見るのみにして、之れは本郡の爲憂ふべき現象なり。其他農産收穫として二十七萬八千三百二十圓あり。

口、林 産

面積百五十二方里を有する本郡は重疊たる高山幽邃なる溪谷形成し天然の森林地帯は約其八割強を占め民有林野六萬六千三百七十六町步國有林野十二萬六千八百四十五町步を以て算す萬山皆之鬱蒼たる森林にして古來末た嘗て斧鉞を入れざる美林、蔚然として晝檜ほ暗き大森林等あり、其の主林木は櫟・朴・山毛櫨、松、杉、栓、檜、栗、檜等にして建築用材に鐵道枕木に電柱及び木地材、薪炭材其他推茸栽培に累々たる富源各部分に存在す、然れとも從來交通運搬の便備はらざるを以て此の富源を拓き利用の途を講ずること能はず、空しく風雪害を被り或は腐朽により新陳代謝して漸く林相を持続するのみなりき、然るに近年田島に鐵道開通され又只

見、小出間の鐵道も布設されんとし道路も漸次改修されし爲め各種運搬方面も是に其の緒を開かれんとす。蓋し山林の利用は世の發展に伴ひ合理的に經營せざるべからず、伐木事業の興起を期するには一均水源涵養、土砂杆止其他國土保安的關係を審にして其調和を誤らざることを期せざるべからず、故に之が伐木、造林の實行に努むるを肝要なりとす、而して本郡も十萬餘町步に對し施業方案を確定し、河川道路に添ふ保安林の施業を確實にし以て更植造林に奨勵を加へると同時に販路を調査し盛に伐木輸出せは本郡の大富源も前途倍々有望なりと謂ふべし。

林産中木材輸出は主に丸太、木炭、枕木等にして其貨物噸數は當管轄路線中實に第一位を占め、木材は主に若松、新潟、東京方面に向ひ、木炭は若松、栃木、東京方面に向ふ。又木工品の製作年々増加し土産物として掘指中に在り。木炭は從來組合組織なく又販路も一定せざりしが大正十四年六月十四日會津木炭同業組合第五支部となり事務所を南會津支廳内に置き組合員數は千二百四十九人（昭和十一年末現

在)あり。而して從來は本組合に於て検査をなし來りしも昭和八年六月一日より縣に移管し若松木炭検査支所管轄となり其後郡内の生産額増加せるを以て昭和十年四月一日分轄田島支所の設置を見たり。組合設定當時は年産額百萬貫餘なりしも漸次増加し現在に於ては三百八十萬貫の生産を見縣下各郡市中第三位にして西部方面の斯業隆盛を見れば近年中第一位になること明らかにして支所としても銳意獎勵に努力中なり。而して斯業は山間部落に於ける重要物産なれば造林に相俟つて益々發展途上にあることは欣快とすべきなり、搗栗は從來本郡として重要な農家經濟の位置にありしも近時枕木其他の伐木に依り生産額尠々となりつゝあるは惜しむべし。されど其の産出額二萬九千八百七十圓を數へ未だ重要林産の位置にあり。

輸出地は東京、千葉、大阪其他の地に向ふ。紫薇は實に本郡林産の第二位を占め其産額五萬三千三百七十五圓の多額に達し栗と共に比較的農閑期に生産され其の輸出地は東京、大阪方面なり。其他林産額として獸皮の外九萬八千二百餘圓あり。

工業

イ、生糸、眞綿、織物類

生糸類としては從來本郡の最重要副業としての生産なりしも、前述の如く近年生糸の暴落相次ぎし爲め斯業に服する者年々減少し其の産額も昔日の隆盛を見る能はざるは諒に遺憾とす。生糸産額七萬一千九百三十七圓、眞綿七十六圓、織物二千四十一圓を生糸は主に新潟、横濱方面に向ふ。

ロ、酒類、醤油

酒類は其産額從來と大差なく三千百九石にして田島、荒海、檜原、江川、富田、伊北の各村に産し東京、栃木方面に輸出され醤油は千十石を算す。其他工業としては木管、木地、洋樽材、ベニヤ板等あり、猶林産工場其他の工場各地に設置され各種の工業盛んになりつゝ、あれど未だ販路確定せず、若し此の方面に調査努力せば南

會の開發に資する所多からん、其他の工業産額は八萬餘圓あり。

畜 産

馬匹の必要なるは世の深く認むる所にして之が改良蕃殖を圖るは刻下の急務なりと信ず。殊に本郡の如き山野多き地方にありては特に産馬業の必要を感ずる所なりとす。地方農家は馬匹と密接にして離るべからざる關係を有し、或は開墾、耕作、運搬、行樂等悉く馬匹に倚る所多く又厩肥は馬匹の増加に伴ひ其産額増加すべく殊に地方日常の貨物運輸、軍用乘馬、輓馬等の需用は益々増加し來れるを以て一は農業上の必要に應ずると共に公益上之が改良増殖は國民當然の責務にして本郡に適切なる事業たるを信ず、而して本郡馬匹は全部舍飼となすを以て比較的多大の採草地を要す。然るに採草地にして民有に屬するのみにては年々不足を告げ、不足の分は國有地草拂下をなすも中以下の農民は經濟上之が拂下をなす能はずして藁又は道路

堤塘畦畔等の雜草により以て補給しつゝあり、又農家の厩肥に對する注意も管理取扱に不充分なるは慨嘆に堪へざるなり、今や山間僻地の農家と雖も金肥を使用せらるるなき状態にして本郡亦世の風潮に連れて金肥によるもの年と共に増加するの傾きあれども經濟上頗る遺憾なき能はず、故に肥料に對する智識の普及を圖り堆肥小屋の建設を奨励し經濟上より手間取主義を計り金肥の輸入を防ぎ以て安全に家事の改良發達に努めんこと緊喫なり。

明治十七年福島縣產馬會社規則を改正せられ事業の擴張改善を計り、明治二十七年會社組織を解散明治二十五年福島縣產馬組合規則により各郡に於て產馬組合を組織するに當り、本郡は明治二十七年南會津郡產馬組合を組織し、同二十八年一月始めて第一回の組合會を開くに至れり、而して明治三十三年法律第三十三號產牛馬組合法の發布に依り組合組織を變更し爾後時勢の進運と組合の進歩發展と共に伴ひ屢々定款に増補改訂を加へ以て今日に至れり。

本郡畜産の主なるものは馬、豚、鶏、緬羊等にして馬は二百六十二、豚は二百二十六、鶏は二萬六千九百二十生産し緬羊は現在二百八十頭にして其販路は馬が栃木埼玉、愛媛等に豚は若松、須賀川等にして緬羊は未だ販路なく政府事業として年々百頭位の増加を見つゝあり、緬羊事業は本郡としても適當なる畜産なる爲め將來此の方面に研究努力し其利用販賣等にも留意せば或は畜産第一の額を見るべく、其の馴育も容易なる爲め農家副業に最適なるものと思惟す。其他畜産額として三萬九千三百四十五圓を見る。

鑛業

本郡に於ける鑛業は古き起源を有し維新前既に朝日村大字黒澤の地内に於て採掘行はれたり、而して其の銀鑛は漸次銀の産出を減し銅を産するに至れり、然るに往時採掘設備の不充分なるより坑中に湛水したるものを排除するに術なく遂に廢鑛と

なれり、是蓋し廢鑛となれるの原因は一に湛水にあらずして交通不備運搬の便を得ざるもの與つて多きに在るものなり、然りと雖も本郡は栃木縣足尾地方と相距ること遠からず、又新潟縣と相接し銅鑛の存するもの尠なからず、銅に次ぎては銀、鉛、亞鉛、金、鐵鑛等の存在を見る、其他石油、石膏、石灰、岩鹽等を産し尙玉髓、瑪瑙、水晶等硅酸屬を産す、地質上より是を觀るも中世紀の上部及第三紀の下部を所々に認めらる、八總銅山は第三紀層及中世層交互し大川村上の山銅山は中世層に屬するもの多く、朝日村の銀、銅、鉛鑛及び伊北村地内よりは銅、銀、亞鉛等を産し地質は第三紀層に屬するもの多し、等しく第三紀層と認めらるべき伊北村大字叶津字朝日岳に嘗て石油の試掘を出願したるものあり、尙現に朝日村大字福井地内に石油を産する箇所ありと謂ふ。

元祿時代の大銀山、徳川幕府の御納戸金が會津、越後の國境たる深山幽谷の裡より出でたりとは頗る奇異の感なきに非ざるべし、彼の厚生利用術を以て聞えたる川

村瑞軒が公儀の御用として採掘したるは、本郡檜枝岐地内の白峰^{しらね}銀山及これと一條の只見川を境として實は同一谿谷にして新潟縣に屬する上田銀山これなり、盛時は一千餘戸の部落となりしことを思へば實に山中別天地、白銀の郷なりしなるべし、如何にして此の大銀山は中止せるか昔時の事知る可からざれど、河水の浸入汲み出しの法知らざりしに因るといひ、又大饑饉に際し一山全滅の不幸に遇ひしともいふ、白峰、上田の兩山にて舊廢抗は百餘もあり、併し何れも昔時幼稚なる採掘法によりしことなれば抗中甚だ淺く數間乃至數十間に止まれりと、果して然らば今日の新式採掘によれば此の寶庫は再び開かれ足尾以上の盛大を見ること不可なるか、猶ほ此の外にては東部の各地にも鑛區を見出し檜澤村地内に石膏の見るべきあり。而して現在試掘者百六十を算し、若しこれが運搬の便設けられ大事業家の投資するあれば必ずや南會は一大鑛業地となるべく惜しむらくは鑛業家は自家現在の事業に力を費し新鑛業地に手を伸ばさざることなり、然れども時運の進歩は永く寶庫の埋没を許さ

す近年試掘出願せるもの三百有餘ヶ所に及びその内現に採掘しつゝある主なる箇所は檜澤村の金鑛一ヶ所石膏一ヶ所、荒海村金鑛一ヶ所、館岩村金銀鑛三ヶ所、伊南村銀銅鑛二ヶ所、大宮村銀銅鑛二ヶ所、富田村銀銅鉛鑛一ヶ所、朝日村金銀銅鉛鑛三ヶ所、伊北村金銀銅鉛鑛三ヶ所、檜枝岐村硫黃鑛一ヶ所の數十ヶ所にして今後益々有力視せられつゝあり。

物産の主なるもの

種米	麥	葉	生	蠶	蠶	酒	馬	搗	木
別	草	燦	繭	種	類	類	栗	工	工
生産額	四〇、〇七〇石	四、〇〇〇石	二六、四三三キロ	七三、一九八石	四〇、三三三グラム	二、二八七ノ	三、一〇九石	二六二石	八九〇石
價格	九八、〇七四	四三、七五三	三三、九八八	二二、四八二	一六、八〇六	七、九三七	二七、七三〇	一一、〇九八	八九、〇〇〇
單位	三三、九七	一〇、四七	八三	二、九三	四二	三、二四	八九	四三、〇〇	一〇〇
販路	郡内	郡内	郡山地方專賣局管轄	若松、郡山	新潟縣、栃木	横濱	東京、栃木	關東、四國	大阪、東京

土産品の主なるもの

用材	薪材	木炭	紫炭	計
三二六、二八一石	五、五四六石	三三二、二七ノ	一八、四九ノ	二九〇、〇九七石
二四〇、〇〇一	八六、二〇五	六二、八三三	五三、三七五	
新潟、東京	東京	若松、栃木、茨城、東京	大阪、東京	

官公衙學校

壘詰清酒 勝栗木 工品
 羊かん せんまい わさび
 古燻製岩魚 なめこ

名稱	所在地	田島驛	名稱	所在地	會津田島驛
福島縣南會津支廳	田島町大字田島	五丁	田島警察署	田島町大字田島	三丁
田島土木監督所	"	七	若松區裁判所田島出張所	"	〇
田島郵便局	"	三	永田尋常小學校	田島町大字永田	〇
田島町役場	"	三	縣立田島農林學校男子部	大字田島	〇
田島稅務所	"	六	長野尋常小學校	田島大字	〇
郡山地方專賣局	"	三	郡山地方專賣局	長原村大字	〇
田島煙草販賣所	"	三	豐成官吏派出所	長原村大字	〇
縣立田島農林學校	"	三	檜原村役場	字豐成	〇
女子部	"	三	檜原尋常高等小學校	成岡	〇
田島尋常高等小學校	"	三	旭田村役場	字豐成	〇
江川村役場	江川村大字湯野上	四、七	旭田尋常高等小學校	旭田村大字鹽生	二、七
江川尋常高等小學校	"	四、七	檜枝岐尋常小學校	"	"
檜澤村役場	檜澤村大字福米澤	一、〇	大川尋常小學校	大川村大字立岩	一、五、四
檜澤尋常高等小學校	"	一、〇			二、三、五

名稱	所在地	田島驛	名稱	所在地	會津田島驛
縣立山村道場	荒海村大字古内	二、六	伊南村大川村組合役場	伊南村大字古町	九、四
荒海村役場	大字川島	一、〇	古町尋常高等小學校	"	九、四
荒海尋常高等小學校	大字關本	一、四〇	大宮村役場	大字山口	七、三
館岩村役場	館岩村大字鹽ノ岐	九、二五	山口營林署	"	七、三
館岩尋常小學校	"	九、二五	若松區裁判所大宮出張所	"	七、三
檜枝岐村役場	檜枝岐村	一、五、四	山口警部補派出所	"	七、三
和泉田尋常高等小學校	富田村大字和泉田	一〇、一	郡山地方專賣局	"	七、三
片貝尋常小學校	大字片貝	九、六	山口煙草販賣所	"	七、三
小梁村外二ヶ村組合役場	小梁村大字小林	一、三	富田村役場	"	一〇、二
小林尋常高等小學校	"	一、三	朝日尋常高等小學校	"	一三、三
若松區裁判所	朝日村大字黒谷	一三、三	伊北村役場	伊北村大字只見	一五、二
朝日出張所	"	一三、三	伊北尋常高等小學校	"	一五、二
朝日村役場	"	一三、三			

銀行並會社

銀行並會社名	所在地	總資本金
田島商事株式會社	田島町	三、五〇、〇〇〇
會津長野運送同	同	三〇〇、〇〇〇
田島水力電氣同	同	一〇〇、〇〇〇
南會物產同	同	一〇〇、〇〇〇
株式會社田島印刷所	同	五〇、〇〇〇
同 玉屋商店	同	五〇、〇〇〇
田島自動車合名會社	同	八、四〇〇
會津洋櫓材 同	同	三、〇〇〇
合名會社丸山自動車商會	同	五、〇〇〇
同 芳賀寅商店	同	一〇、〇〇〇
共榮自動車合資會社	旭田村	六、〇〇〇
銀行並會社名	所在地	總資本金
合名會社丸湯商店	田島町	二〇、〇〇〇
合資會社高橋自動車商會	同	二〇、〇〇〇
同 山八山形屋商店	同	五、〇〇〇
同 南運送倉庫	同	六、〇〇〇
同 富士屋商店	同	八、〇〇〇
田島金融合資會社	同	一〇、〇〇〇
會津田島合同運送 同	同	三、〇〇〇
長野運送 同	同	二、〇〇〇
合資會社萬屋商店	荒海村	八、〇〇〇
同 湯ノ花温泉	館岩村	三、〇〇〇

工場

合資會社山形屋商店	江川村	七〇〇	檜枝岐水力電氣株式會社	檜枝岐村	三〇、〇〇〇
關根製材合名會社	同	一、〇〇〇	合資會社馬場商店	伊南村	七、五〇〇
榮富倉庫運輸株式會社	檜原村	二五、〇〇〇	伊南川水力 同	同	一三〇、〇〇〇
檜原合同運送 同	同	二五、〇〇〇	南會釀造 同	富田村	五〇、〇〇〇
合名會社皆川商店	同	二、〇〇〇	黑谷川水力電氣 同	朝日村	一五〇、〇〇〇
大倉屋農具商會	同	三、五〇〇	只見酒造 同	伊北村	一五〇、〇〇〇
福永合名會社	同	四、四〇〇	株式會社只見自動車商會	同	一〇、〇〇〇
合名會社室井商店	檜澤村	一〇、〇〇〇	日本銀行田島代理店	田島町	
合資會社丸叶商店	同	三、一〇〇	郡山無盡株式會社	同	

工場名	所在地	日採業數	工場名	所在地	日採業數
田島製糸組合工場	田島町		林木工場	田島町	三〇〇

田島製糸館工場	伊南製糸工場	大宮製糸工場	南會製糸工場	木村製板所	一久同	塚原同	芳賀沼工場	河合同	湯田木工場	平野木工場
田島町	伊南村	大宮村	同	田島町	同	同	檜原村	同	同	檜澤村
二〇	二〇	九〇	九〇	一八〇	一五五	一八二	三三〇	二五〇	一〇〇	一三〇
佐藤製板所	星同	都筑同	奥村同	開根同	阿久津同	佐藤木製	伊南製板工場	山口製板所	三浦木工場	柳原同
旭田村	同	田島町	旭田村	田島町	江川村	檜原村	伊南村	大宮村	同	同
二〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇五	一六〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇

赤城木工場	野中同	阿久津同	室井團扇柄工場	渡部製板工場	星同	五十嵐同
檜澤村	同	同	同	荒海村	館岩村	同
六三	三〇〇	一〇〇	二〇〇	一八〇	二〇〇	三〇〇
酒井木工場	小林同	小林製板所	唱崎同	會津洋樽材工場	星木管工場	同
大宮村	小梁村	同	朝日村	田島町	同	同
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

名勝舊蹟並二山村道場其他

○田島町 郡の東部にあり若松市を距たる事十一里三十二丁會津街道に當る郡内行政の中心にして人口六千五百九十六明治二十二年町村制實施の際は村なりしが二十九年七月附近の十二大字を合併して町政を布きたり。南會津支廳、警察署、稅務署、土木監督所、若松區裁判所田島出張所、郡山地方專賣局田島煙草販賣所、營林署製材所、縣立田島農林學校、町役場、郵便局等の設けあり。文治年中長沼家政此地に城を築きて十四代代々芦名家に屬し天正年中遠藤氏伊達家に復して此處に居り蒲生の時に北川氏上杉の時は小國氏此處に城代たり。

○鳴山城趾 町の南方愛宕山麓に在り結城支族長沼宗政の奥州征討の功として賴朝より會津鹽谷千貳百貫の地を賜はり城を田島に築き此の地方より館岩郷迄所領たり本丸東西七十間南北百七十間外濠土門は山麓より峰に涉り數町歩に及び隍及門蹟の

石垣今猶存せり其他長沼家四天王と稱したる湯田、渡部、星、室井の館跡あり「鳴山」の命名の起源に就ては若松芦名盛氏逝去嗣なし常陸佐竹氏より養子を決す。當田島の城主長沼盛秀は同家の客衆として伊達氏より迎へんことを主張せり故に佐竹義廣芦名の家督を嗣ぐに及び伊達氏より養子を主張せし者の知行を沒滅し大舉して又當城を收むるに至りぬ時に山巔より一羽の鳴飛出し寄手の本陣の旗を喰切り味方大勝を博したり、之れより鳴山城と稱すと云ふ。

○田手宇賀神社 祭神は須佐之男命、宇迦之御魂命、大日要命にして齋明天皇御宇四年五月の勸請なり。往昔人此處に住みし始めに飲用の水を求めしに柳樹の下に靈泉自から湧き其の中に稻を生じて實れること田の如し。茲に於て神を祠りなほ四圍の水田を開拓す其の形島嶼に似たるを以て地名を田島と呼び神を田出宇賀大明神、田島大神、亦起源大鎮守と稱せり。中世に至り神殿兵燹に罹り神邑亦歿せらる。文治五年下總結城より長沼家政來り領するに及び神田を奉り殿宇を營繕し弓矢刀劍武

具を献納せり。例祭には家臣をして神輿渡御に供奉せしめたり。天正年中伊達政宗の亂入後中絶せしを慶長八年蒲生氏の臣小倉氏城代の時再興す。現今の祭日は七月二十日にして近國近在より參詣の人々群衆を爲し神輿渡御式あり其の行列舊時を想起し實に壯觀なり亦踊屋台、等の催しあり輿を添ふ、山間稀有の大祭なり。

○藥師寺(新義真言宗豊山派) 藥師寺安樂院は田島町本町にあり人皇四十代天武天皇の勅願所天下泰平國家安全大祈願の道場なり。本尊阿彌陀如來は行基菩薩正念往生の御願に依りて一刀三禮の靈佛なり、本堂の藥師如來は三國傳來の尊容にして白鳳二年大唐高宗皇帝の献せらるゝところにして天竺龍猛菩薩の御作なり、天武天皇即ち禁殿に安置し給ひて甚だ尊敬ましまし皇子御誕生の御満足により同十年の御草創御堂なるに及んで金光山藥師堂と御宸翰の勅額を賜ふ。日光月光十二神將は四十六代孝謙天皇の天平勝寶六年の春正月遣唐使大伴古鷹吉備眞備歸朝に望んで鑑眞和尚同船に來朝し給ひし時海上の御願として船中にて御作の尊像なり聖武天皇尊佛の

志深く鑑眞和尚に謁し落飾受戒し賜ひて當寺を都より下野の國に移し給ふ。時に天平寶字七年二月なり是れ日本三戒壇の一なり其後八十二代後鳥羽院の御時文治五年四月別當日海大僧都下野國藥師寺村より長沼宗政と上達して當國に移し奉り一時町北藥師平に安置せしを後に今の場所に移し奉る、芦名家長沼家の祈願所にして天正十二年二月には豊臣關白より御墨印を下附さる。元錄三年類火に遇ひ寺坊寶物等皆燒失せしが前記御朱印のみは藥師堂に納置きし爲類火を免る、時の住職淳貴法印臨濟如活禪師相議して法施を乞ひ十六年を歴て殿堂庫裡悉く成就せり現在の藥師堂之なり、從來藥師堂の屋根は茅葺なりしも昭和十年の大雪害に遇ひ同十一年貳千五百圓の淨財に依り瓦葺となせるものなり。祭禮は陰曆正、四、八、師走の各八日にして遠近の參詣者多し。

○教林寺(時宗遊行派) 田島町に在り建久九年田島嶋山城主長沼五郎家政供佛法要の爲め耀輝と號し一字創造す、弘安の頃遊行二代眞教上人奥羽化導の砌り長沼の一

族上人を歸依偈仰ありて淨教戒示奥旨を欣求し寺を教林精舎と稱し耀輝山と號して殿堂を造營す長沼家の母堂揚貴法尼は深く念佛の門に歸入し當院に蓮社を結び耀輝を揚貴山と改めたり、天正の末長沼盛秀逝去の後折橋館の地より當地に移す、元録の始め火災に罹り什物過去帳等焼失し詳かならざるものあり。

○德昌寺(曹洞宗) 田島町東町に在り、長沼宗政此地に領主たるときの創建にして興國山德昌寺と號す、寺の西峯に富士權現として一基の石を祀れるあり、是は弘治年間の住職明察禪師が富士に詣てたるとき齋し來りしと云ふ、一老松を御富士松と稱す、寺は幽邃閑雅の境、春に櫻花爛漫として夏は清風颯々たり、墓地に長沼盛秀の墓あり。

○縣立田島農林學校 田島町大字田島(田島驛より三、五軒、女子部は〇、五軒)にあり、其前身は田島町立農業補習學校にして大正二年田島小學校に併設せられたるも大正十二年四月新校舍を(現在の女子部)建築し田島公民實業學校と改稱せり、

昭和九年三月三十一日之を廢校し同年四月一日農學校規程に依り縣立田島高等公民學校として創立せられ同十年四月六日本校舎新築成るに及び男子部の移轉をなしたり更に昭和十二年二月二十八日文部省告示を以て學則を改め男子部修業年限を三ヶ年とし校名を福島縣立田島農林學校と改稱せられたり、作業用地七百五十坪耕地三十七町餘反歩、演習林三百町歩を有し本郡唯一の中等學校なり。

保證 南會林産販賣利用組合

一、沿革及目的

本組合は昭和十年十月農村工業化の獎勵により政府の補助によりて設立されたるものにして、産林面積二十二萬町歩を背影とする郡經濟更生の大使命を有し雜木類の加工品を産出するを以て目的とす。

從來原木は地方製材に於て荒挽し原始的加工を爲したるに過ぎざりしを以て當地方業者の利用するに當り不便尠からず本組合は精巧なる機械を設備し製作に際し

意匠に品質に改善向上を圖り郡内生産物を統制して當地方木工藝品を製作し木材
價值を高め農村工業の普遍化徹底化を期するものとす。

二、設 備

1、位 置

南會津郡田島町大字田島乙七一番地

2、敷 地 面 積

六百八拾壹坪

3、建 物 坪 數

貳百七坪

主要機械器具

- 1、四十二吋バンドソー
- 2、三六吋丸鋸
- 3、二六吋小割バンドソー
- 4、小丸鋸
- 5、手押鉋機
- 6、自動送平削鉋機
- 7、穿孔機
- 8、木工旋盤
- 9、目立

機 10、月立機 11、研磨機 12、轆轤機 13、糸鋸機 14、噴霧機

主なる製作品

- 1、建築材
- 2、一般和洋家具類
- 3、漆器素材
- 4、運動具類
- 5、玩具
- 6、木材工藝一般

○南山義民ノ墓 田島町の西南に當る一岡阜を護摩山と稱す。半腹に至り老樹翁鬱
とせる邊り三尺の小碑「南無阿彌陀佛」の六字を刻したるあり、之れ實に義民小栗
山喜四郎埋骨の處とす。喜四郎とは何人ぞ南山御藏入の郷に入り口一度喜四郎の段
に入らば田夫野老も享保の昔を追懷し眼に暗涙を浮べ以て當年有士の虐政暴横の衝
に立ち五萬五千石の騒動を惹起し一身を犠牲に供し百姓を塗炭の苦中より救済した
る人傑なるを語らむ、昭和八年四月三日町の有志等相諮り杉原夷山(幸)氏の撰文、
室井竹造氏の書を以て義民碑を建立せらる。

○小野觀世音 江川村大字湯野上字小野に在り石階を経て登る、堂宇は三間二尺一

寸四面椽椽の製古樸にして佳麗なり。又漆塗りの古佛器あり早魃の時之を洗へば雨降ると云ひ傳ふ。祭禮は陰曆六月二十七日にして近郷よりの參詣人山を爲し地方に稀なる賑を呈す。堂後に朝日長者の墓あり高さ四尺幅二尺自然石にして表に梵篆一を鐫れり。村東菜圃の中に一基あり、大きき前に同じきも文字なし長者の妻の墓と云ひ傳ふ。

○湯野上温泉 江川村大字湯野上にして、大川の岸に湧出す。新湯、清水屋湯、猿湯、館ノ湯、花水館湯、旭屋湯等兩岸に相對す夏季及初冬に遠くは東京方面の浴客多し近年宿舍の體裁も漸次整ひ山河天然の雅景は旅情を慰するに足る、會津線湯野上驛に下車か若くは若松よりのバス「定期」に乗するを便とす。村に接續し日本電氣工業株式會社湯野上發電所が昭和十年十二月竣工して活氣を呈す。

○塔の崩 大川の沿岸旭田村澳田より江川村白岩に通ずる間に在り斷崖數丈流れに望んで聳え其の腰僅かに一步を通ずる柵棧を架し嶮難云ふ許りなし、(西崖は江川村

彌五島に屬す) 東崖最も峻しく巨巖往々に疊起す高きものは十五六丈低きものは十二三丈其の狀九層塔の如く極めて奇なり故に此の名ありとぞ。其の下絶壁の處躑躅紫藤多し亦佳觀とす。傍ら一大巖の腰に空嵌の處ありて虚空藏を安置し其の下の空嵌に茶店ありて文人墨客の憩ふ者多し。總て此の境一巖一石稱して名區とせざる處なし左に載せむ。

○鷺 塔 岩 ○陰 陽 石 ○牛 洞
○鷹 塔 岩 ○屋 檣 塔 岩 ○護 摩 堂 岩
○獅子 塔 岩 ○九 輪 塔 岩 ○舞 台 岩
○屋 形 塔 岩 ○象 塔 岩 ○烏 帽 子 岩
○鰐 口 岩 ○疣 清 水 ○夫 婦 石

○嶽觀音 旭田村大字南倉澤に在り堂宇美麗なり。鎮守府將軍坂上田村麿の建立なりと云ひ傳ふ。陰曆四月十七日の祭禮には各村より馬を牽いて參詣の群衆夥しく競

馬最も壯觀を極む。

○高倉神社 檜原村大内に在り大内はもと山本村と稱へしを高倉宮以仁王敵に扼せられ一時此處にて

高峯より風吹きもとす山本に

心とゞめし道しるべかな

と詠せられて御滞在遊ばされしに依て大内と改められしとぞ。

春は花秋は錦の紅葉山

あづまの都大内の里

と仰せられ越後へ趣かせられしを村民遺徳を慕ひて一社を興し崇めまつりしといふ。舊字水抜及萩原に在る高倉神社は一時由緒ありし地に分祠せしものなり同神社内に奉藏せる治承四年八月七日渡邊唱の手記なると云ふ事蹟は青史と異なるも以て考古家の參照すべきものあらむ。

人皇八十代高倉院の第二の皇子以仁親王是れを高倉の宮と號す源三位頼政の勸めに依り兵を擧げ宇治川の合戦敗北し足利又太郎忠綱の情にて御命助かり越後國の住人小國右馬頭頼之に依り落ち給ふ。治承四年七月親王中仙道筋御下向上州沼田より戸倉沼山に御泊、檜枝岐より田島を経て翌日暮方漸く山本の里に着せらる。然るに宮御滞留知れ渡りしや柳津より石川冠者有光等押寄せし爲め引返したり。宮には柳津勢を氣づかわれ乍も山本を大内村と改稱せられ方向を轉じ再び伊南に向はせらる。此の由諸に依り宮の御筆を高倉大明神と祠り大内鎮守とす。

○檜原驛 會津線檜原驛は本郡東部の江川、旭田、檜原三ヶ村の中心にして旭田村及び檜原村山間部は勿論江川村、田島町に通ずる街道の中心を爲せり故に地方物産の集散多く人馬の往來夥し。大正九年十一月七日姫川電氣變電所開設され亦昭和十年十二月日本電氣工業株式會社の膨大なる堰堤築かれ附近の眺望亦絶佳なり。郡山地方煙草專賣局の收納所、其他工場多し。

○如活禪師の遺跡 荒海村大字中荒井に庵室の跡あり、禪師は山城宇治黄蘗山旭如禪師を師とし道徳高く佛教の奥旨を極め醫術經書に精通せらる、享保四亥年夏五月四日の黄昏飄然當時湯田五兵衛の宅に宿し給ふ、不思議のことありて其名僧なるを知り頻りに留め奉り同人宅地内に方九尺の草庵を結び暫く是に住み給ひしも生國は決して名乗り給はず、當地の豪家渡部開當厚く歸依し奉り五兵衛と談し字上三澤へ一室を構へ奉り年久しく是に住し給ふ、諸宗の僧侶へ法義を傳へ又醫術の門弟等數多ありしとぞ、開當氏に藏する禪師由緒の一卷あり、三澤地内に巨大なる無方塔あり「臨濟三十八世、上龍下水如活禪律師」とあり、徳尙今に著く此塔の苔を載くときは病を治すと云へり、享保十六年禪師の建立なる「摩訶毗盧舍那佛塔」あり。

○縣立山村道場 荒海村大字系澤(田島驛より南方約七軒乗合自動車の便あり)にあり、昭和十二年三月二十二日設立せられたるものにして師弟起居を共にする塾舎教育に依り勤勞精神の涵養を強調し、一般農村經濟と異なる山村生活經濟の實態に即

したる中堅指導者を養成し近時疲弊甚しき山村經濟の更生をなさんとする目的なり尙此種道場は全國唯一のものにて其の概要左の如し。

イ、修練科目

師弟起居を共にする塾舎教育により、精神修養、皇國精神、郷土精神、協同精神體操及武道を行ひて修練す。

ロ、實習訓練

山林を主體とした森林勞作(製炭、造林、間伐手入法、矮林の仕立方、樹苗養成、林産加工、菌茸並林野有用植物の栽培)森林及農業土木、種藝、畜産、養蠶、園藝淡水養魚、農産加工、山村副業、記帳及販賣購買の協同。

ハ、講義

林業汎論、農業大意、産業法規、自治行政、森林經營、地理、歴史、時事解説、營養知識、衛生大意、其他農林業に關する一般知識。

二、修練生入場要目

長期生は一ヶ年修業、定員三十名、研究生五名（引續き一ヶ年研究する者）にして福島縣を中心として東北六縣より募集し入場資格は滿十八才以上の男子にして身體强健、品行方正、思想堅實なる高等小學校卒業者又は之と同等以上の學力を有するものにして現に農林業に従事するもの又は従事せんとするものにして市町村長又は町村經濟更生委員會の推薦に係る者にして入場の可否は場長之を定め修練生には毎月九圓以内に於て食費の補給をなすものとす。

ホ、設備の概要

1、建物

神社一棟、本館一五四坪（道場、修養室、教室、玄關、職員室、短期生宿舍兼養蠶室、農産加工室及廊下、便所等）生徒宿舍及食堂、一三〇、五坪、木工其他作業室二五坪、農具室二五坪、農産物收納舎一五坪、製材所二八坪（動力一五馬力）

木炭倉庫二五坪、堆肥舎二一坪、畜舎九八坪九、（厩舎、牛舎、緬羊舎、雞舎、豚舎）官舎六五坪計五八八坪餘

2、山林及農場

實習林二〇〇町歩（原始林）、田、畑、苗圃、計八町歩、栗改良林三町歩、放牧地五〇町歩、採草地一〇町歩外に養漁地、なめこ、推茸の栽培地あり。

3、家畜

乳牛二頭、馬五頭、緬羊三〇頭、豚一〇頭、雞一二〇羽、兎一〇頭等。

4、器具、機械の主なるもの

製材機。一五馬力日立モーター、四二吋及三〇吋、丸鋸各一台、二六吋テーブルバンド一台、一〇吋手押プレナー一台、動力用ロクロ一台、製函用丸鋸三台、足踏ロクロ機械八台、動力用農具。紐摺機一台、脱穀機一台、精米麥機一台、製粉機一台罐詰製造機一台、製麵機一台、三馬力ディーゼルエンジン一臺、其他人力用

器具は山林用具、農用器具、畜産用具、養蠶具、運搬用具一式備付あり。

へ、職員

場長、技師一名、技手（農業、畜産）二名、主事補一名、講師、助手數名。

○龍福寺 荒海村大字系澤にあり新義眞言宗熊野山と號す山城國醍醐山光臺院の末山なり長久年度本願吳庵比丘、紀の國舊名熊野權現の告に依て稀なる靈地故龍福山熊野社を勸請し院内鎮守とす故に熊野山龍福寺と名づく。今に吳庵比丘の五輪塔あり寛治四年惠圓上人開基創立永續し天正年中此地に移すと云ふ。然れども縁起には永祿の頃長沼盛勝此の寺を造立して祈願所となし祐請と云ふ僧を開山とせしと云へり。長祿三年に葬りしといふ田島城主長沼政明の位牌あり長沼家より遣られたる古文書二通を藏し、亦元境内たりといふ山麓に長沼盛勝の墓なりと云ふ五輪残り。○湯ノ花温泉 館岩村大字湯の花に在り湯は岩間より併出し沿槽を設け滄冷にして白湯の如し夏の避暑、秋の紅葉は以て心身を慰するに足る故に遠近より來り浴する

もの多し。此の地は近衛文應公の幼少（十三歳）の折來遊せる地なり。

○木賊温泉 館岩村大字宮里西根川の西岸に在り岩を穿ちて湯槽とす。温泉其の間より湧出す。癩瘡に効あり、來浴するもの多し、屋を構へて浴客を待つ。

○田代山 館岩村の南端に在り行程は湯の花より水引を経て登るを最も便利とし此の間約四里強なり海拔六千三百五十七尺本郡屈指の高山なり頂上に至れば草木總て雪壓の爲めに蟠居若くは延伏し其狀奇觀を呈す又各所に凹地濕原ありて田代の形をなす故に此名あり所謂高山植物は尾瀬沼に於けるものと同じく珍種を發見す、近く帝釋山、白見山、大澤高森山、枯木山、臺倉高山、遠くは燧ヶ岳、旭岳、駒ヶ岳等の巖々たる連峰一望の内にありて其雄なる景は登山人をして快哉を叫ばしむに足る。

○古町 天正の頃河原田盛次芦名家に従つて伊南の地を領し館を茲に築きて居所と

せし故伊南町と稱す後青柳に城廓を構へて伊達勢を拒みしが敵退いて再び還住す因つて今の名に改めしと。

○善導寺(浄土宗鎮西派) 伊南村古町に在り、慶長五庚子年四月會津城主蒲生の臣蒲生忠右衛門惟時伊南久川に在館の砌り上野國館林善導寺廓譽和尚を招き菩提として一寺を創建し成寶山善導寺と號せり。

○久川城趾 伊南村大字青柳南四丁にあり。河原田治部少輔盛次は結城朝光十三世の孫なり、文治五年盛次より八世の祖盛長始めて青柳の地に築き久川城と稱し伊南地方を領し世々芦名氏に従ふ。天正の頃芦名氏伊達政宗の爲めに亡ぼさるゝに及び鳴山城主長沼盛秀等伊達氏に降るも獨り盛次屈せず長沼氏等と戦ふこと屢々なりしか太閤秀吉伊達氏の罪を正すに及び漸く免れしといふ。其城趾尙は見るべきものあり、又近傍に其臣下の居住せし館趾多し。

○古町公孫樹の靈木 伊南村古町小學校庭の西南隅に在り慶長十五年頃城代蒲生忠右衛門久川城を再興し當郷を支配す當時元河原田の家臣馬場安居なるもの小瀧川尻現校地に住し居る時庭木として手入せりといふ其時より概算すれば樹齡實に四百數十年なり、幹の高さは約二十五米周圍十一米にして年々成長繁茂しつゝあり此の公孫樹は雄木にして靈木として知られ俗にいふ數多の「チ、」といへるもの幹より下垂し母乳出でさる時心願すれば乳出づとて參拜するもの多し、又晩秋の候落葉の状況により降雪を豫知せらるゝといふ。此の公孫樹を折り又は葉を便所等に棄つる時は其家に災起るとて村民齊しく畏敬するといふ。

○香取神社 伊南村大字宮澤に在り境内東西四十間南北一丁許り古松老杉亭々として生繁り遙かに田代山の高峯を望み近く伊南川の碧潭が流れ神さびて嚴かな光景なり。治承四郎七月十日高倉宮の勸請せられし所と云ひ傳ふるも往古兵燹に罹り縁起焼失し之を詳かにすること能はず。

弘安二己卯年、領主河原田氏一族、杉の岸民部景信之を造營し稍々舊觀に復せり後天保四年諸村の寄進にて造營を全ふし明治四年郷社に列せらる、河原田氏累代の崇敬厚く往時は社領もありしと云ふ、現在指定神社なり。

○山口 大宮村山口は本郡東部より駒止峠を越え西部に入る門戸にして駒止峠の大改修後は人車の往來多く又西部荷物の集散地にして本郡の要路をなす。地方物産又多し。山口の南方に答崎といふ處あり又其北五丁に光明院塚あり天正十七年長沼盛秀、河原田盛次が軍勢と戦ひて敗走せし地なりと。

○觀音堂 大宮村大橋に在り享保四年四月豪族角田雅樂之亟、如活禪師の進言にて母の菩提を弔ふに勸請せしと言ひ傳ふ。金色燦爛たる三十三體の像は精巧なること國寶たるの價値あるものなり。

○光明寺(眞宗高田派) 大川村小立岩に在り、治承四庚子年七月高倉天皇第二の皇子以仁親王宇治川の戦に利なくして越後國に落ちさせ給ふ時御附小倉少將墨染の身

となり宇治川に於て戦死のもの并に尾瀬中納言の亡靈を永く弔ふべき旨勅命を蒙り一寺を創立し大桃山龍王寺と號す山寺號の勅額あり、其後天文元年淨圓といふ僧、寺を此地に移し龍岩山光明寺と改稱す。

○虚空藏堂(小梁村梁取) 宗祖弘法大師東下の時伊南川に添うて森戸に至る、岩窟の邊りにて御長一寸八分の虚空藏菩薩の紫金像を拾ひ感涙の餘り一七日にして木像を彫し紫金像を其中に籠め之を窟裡に安置せられたるものなりと當地成法寺所藏縁起に詳かなり。

○鹿島神社 富田村大字界小字蛇宮アツノミヤに在り。天養元年十一月一日源義明と云へる人の常陸國鹿島本宮より分請せし處にかゝる、維新前は舊幕領御藏入五ヶ所の御祈禱所の一にして毎年官命を蒙り祈禱をなせり承應年間より伊勢神宮の例に倣ひ二十一年毎に社殿の建替をなし來りぬ其都度時の役所より金穀を下附せられ普請落成の時正遷宮式を嚴肅に舉行せり。早歲雨を祈る時此社及び二軒在家若宮八幡宮梁取觀

音堂に集り祭禮の時獅子舞を法樂に供す可しと祈願すれば必ず驗ありと云ひ傳ふ。

○新潟電氣株式會社 小梁村小林に取入口が在り規模大にして目下工事中、竣功は昭和十三年十月の豫定なり。

○若宮八幡神社 八幡村大字二軒在家小字九々生の西一丁にして八幡山の奇岩聳立せり。山背より清流出で西畔に若宮八幡の神社あり、境内幽邃にして神寂ひたり。治承四年八月高倉宮以仁王は時利あらず下山より伊南川を渡り和泉田を経て西下せらる。當時九々生は田西村と稱し宮を奉迎する村人の誠忠を愛でられ螺沼の水氣立昇り蛟龍に似たる様を御覽あり。

底ふかく潜める龍も今はとて

雲井はるかにのぼるうれしさ

と詠せらる。又此時「余は水にくゞれる龍の如きぞ」と宣ひ此の「くゞる龍」か村名と轉訛するに至りぬ。かくて宮は右衛門隼太に命せられ若宮八幡を勸請し武運長

久を祈願し給ひぬ。出羽新庄の城主戸澤大和守（たけかつら）に効ありし爲め寛政中より天保六年まで年々重臣を派して代拜せしめたりと云ふ。

○大原鐘乳洞 大川村大原にあり本郡としては極めて珍らしく探勝者は其の奇なる狀に一驚す。

○只見 只見川の西岸に在り黒谷の西北二里叶津、只見の邊は山中なれど土地稍潤肥にして五穀乏しからず。蠶種製造、養蠶、紫蕨等盛んにして居民の生計の資に充つ只見川、伊南川の合するところにして其の清流はやがて新潟縣に入り阿賀川となり日本海に注入す、此地は本郡西部の西端に於ける交通經濟の中心地なるを以て益々人口を増加し目下工事中の柳津並新潟縣小出行の鐵道路線も此地を廻由することゝなり其發展は西部首位と認むべきか。

仙郷尾瀨

自然美と人工美とを併せ有つ國立公園日光も、仙郷尾瀨を包含することによつて公園價値を幾十倍幾百倍にして居る。大峽谷の奥深く大山彙に圍まれ、鬱蒼たる森林の中に、太古の姿その儘に、神祕に湛えるあの尾瀨沼、静寂そのもの、秀麗さを湖面に映す燧ヶ嶽、塵の世、俗惡の世を遠く離れたあの仙郷尾瀨平、こそは國立公園日光の持つ大なる誇りであり、また福島縣、殊には我が南會津郡の誇りでもある

【尾瀨禮讚】

仙郷尾瀨は裏日光に續く海拔一千五百米以上の高原地で群馬、福島、新潟、三縣の交錯する所、太古の姿その儘に人爲の何物も加へられない原始的處女景觀で、尾瀨の静寂、尾瀨の幽邃、尾瀨の神祕、こそは眞に天下に冠たるものであり又純高山的な植生は世界の珍寶として世に誇るに足るべく、審美的にも、科學的にも將亦精

神的にも、永久に稱讚さるべき景勝地である。

武田博士は其の著「尾瀨と鬼怒沼」の序言冒頭に

尾瀨！ その名は山岳地の自然美愛好者に力強い響を與へるものではないであらう？ あの美しい森林、それに圍まれた尾瀨沼、そしてそれに臨む燧ヶ嶽、又萬花の咲き出でる尾瀨平の類ひ稀なる濕原と怪峯至佛、只見の峽谷とそれにたざり落ちる三條の大瀑布、更にその美と麗と壯とに於て邦内何もの、追従をも許さない平滑の奔湍……………

と絶讚されてゐる。

田島若くは只見から谷又谷、山又山を繞り辿ること約八十軒、只見、伊南、兩川の水源地、燧、尾瀨、一帯は風景要素を最も多量に具へ景色の複雑にしてしかも變化に富む點に於て、邦内これと比肩し得る地は稀である。實に太古の儘の森林は昔ながらの姿で沼を圍繞し、幽邃神秘の尾瀨沼は鏡の如き湖面に岸近く峻り立つ燧ヶ

嶽の雄姿を倒に映し、山魚岩魚の群は靡くともなき水草の間を游泳してゐる。小沼治右工門池の閑寂、沼尻川やヨツビ川の清冽、加ふるに本州第一の廣さと純高山植物とを以て満さるゝ尾瀬平の濕原、之を點綴する老木倭樹の眺め、十勝柳に縁どられつゝこれを貫流蛇行する數條の流れ、更に此の大濕原に宿る大小幾百かの池澮は田代の名にふさはしく或は廣く或は淺く綠絨上に散在する寶玉かとさへ怪しませる。殊には沼尻や燧田代の神苑的な風光、只見の峽谷にたぎり落ちる三條の大瀑布清麗の平滑の瀧、怪峯至佛、等々、原始的な山岳、湖沼、溪流、濕原、瀑布、森林等が整然と集り、春來れば雪は解けて新綠鮮かに、夏至れば百花燎亂の天國を顯現し秋は千山悉く錦繡を織りなし、冬ともなれば萬物皆深い積雪の下に眠つて仕舞ふ。そして未だ醜惡な人の手などによつて汚され、禍される事の極めて少い尾瀬は眞に仙郷的存在である。況んや之に傳説づける尾瀬大納言の物語、眞鶴の群れ、惡勢の跳梁等々尾瀬は全く神祕的謎の景觀地である。

【尾瀬の地域】

尾瀬とは一體どれだけを言ふのであろうか？

陸地測量部五萬分ノ地形圖「燧ヶ嶽」「藤原」参照。

會津田島驛から自動車の便を藉ること約三時間半餘り（行程六十五軒）の檜枝岐、麒麟手部落から徒歩約四時間（行程十五軒）沼山峠を越えた燧ヶ嶽の南麓遠く連る一大盆地がそれであつて、尾瀬沼及び尾瀬が原を中心として、東は大江山から檜の高山に連る山稜で實川澤や利根の溪谷と境し、南は三平峠から皿伏山や菖蒲平、鳩待峠をかけて至佛山の南稜に引く一線で片品溪谷と分水界をつくり、西は至佛山、日崎山から煤ヶ峰を経て新潟境の大白澤山に連る山脈に限られ、北は上越境の景鶴山から松富高山と只見の峽谷を距て、峻り立つ燧ヶ嶽を中心としてその東麓燒山峠（沼山峠）一帯に互る景勝地を汎稱するのである。燧ヶ嶽の北麓、横田代、上田代、御池田代附近の風光や、樵平、大池、硫黄澤、實川澤あたりの樹海は千古斧鉞を入

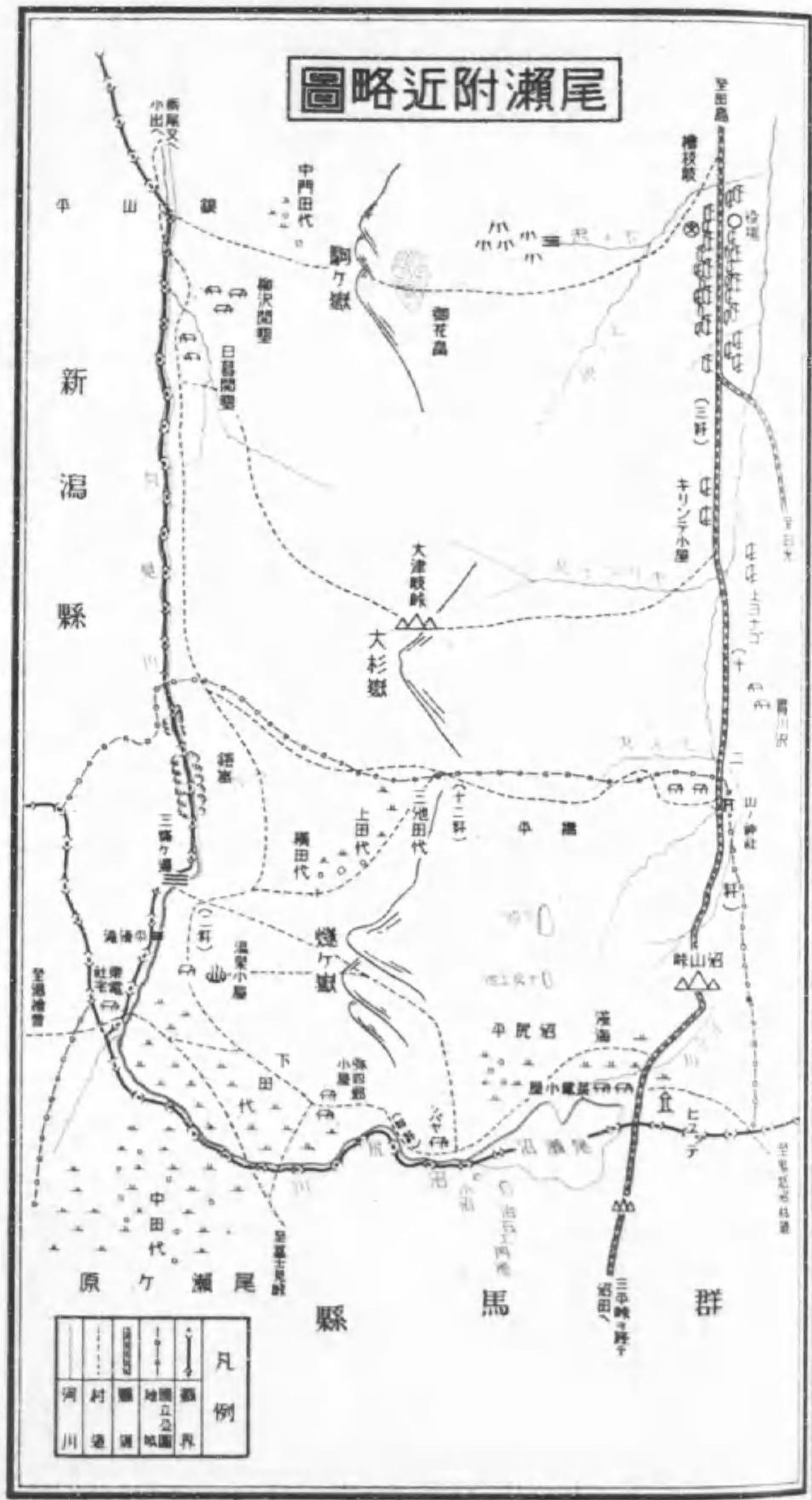
れない原始的處女林なので併せて國立公園奥日光に編入された次等である。

【尾瀨の名稱と由來】

尾瀨と言へば直ちに尾瀨沼を聯想し沼の名が地方を代表する如く考へる人が多いがそうではなくてあの地方一帶の總稱が尾瀨なのである。尾瀨とは上州、會津兩方面とも古來よりの呼びなして古記録には惡勢小瀨などの名が見える。惡勢とは往昔

(尾瀨附近略圖)

關東奥羽の境で天險の要害地至佛、景鶴の岩窟に立籠つた安倍氏の殘黨と稱へるもの、里に出で、は掠奪暴行至らざるなく近隣その凶暴を恐れ憎んで惡勢くくと稱した事から惡勢の立籠る平——惡勢沼など、呼びなす様になつたとの説もある。尾瀨の名稱を用ひる様になつたのは、平の清盛の激怒を買ひ隠遁の地を探めながら東國に下向した尾瀨大納言賴國が、路に迷ひどうにもならなかつた時、山の大明神が立現れ木の枝を折つて路しるべとして下さつたので漸く川のほとりに出で、小瀨に落



着かれたのであつたといふ。それで明神峠、技折峠の名も起り、これ以來大納言に因んで尾瀬と書く様になつたとの説が一番論據づけられてゐる。越えて治承四年平等院の敗戦に平家討伐の雄圖空しく破れた高倉宮以仁王は薨に都落した尾瀬大納言や、越後小國の城主右馬頭頼之を頼つて此の地に入らせられた時、御供の尾瀬中納言頼實が卒去したので遺骸を沼の傍に納め、宮の筆で認められた墓標を立てられたのであつた。それからこの沼を尾瀬沼と呼ぶ様になつたと言ひ傳へてゐる。尾瀬大納言の行方は不明になつてゐるが當時手飼にした一つがひの眞鶴は主人の行末を守つて今猶沼のほとりを淋しく逍遙して居るのであると語り傳へてゐる。

【尾瀬に入る道】

尾瀬探勝路は現在

- 1、群馬口——沼田驛から片品川を溯つて三平峠を越えて尾瀬に入る。
- 2、檜枝岐口——本縣田島驛若しくは柳津驛から檜枝岐街道を辿つて沼山峠を越え

て尾瀬に入る。

3、鬼怒沼林道口——栃木縣新藤原驛から鬼怒川を溯つて鬼怒沼、黒岩山をかけて大江川のほとりに入る。

他の一方は中禪寺湖畔湯元から西澤金山を経て川俣温泉か八丁の湯で鬼怒沼林道に合し尾瀬に入る。

4、銀山平口——上越線小出驛から大湯を経て銀山平に出て尾瀬に至る。

5、湯檜曾口——上越線湯檜曾驛から湯小屋狩小屋から至佛越えして尾瀬に入る。

【尾瀬の名勝】

神祕の尾瀬沼 雄姿を雲表に峙たて四方の山々を眼下に睥睨する燧ヶ嶽を男性的と見るならば、其の山麓に静かにくゞ清淨の水を湛えて鏡の如き湖面に燧の倒影を映す尾瀬沼こそは女性的である。尾瀬沼はまこと物寂しくも美しい湖である。一般に湖は深い女性の魅惑をもつもので殊に山中の湖は黙したまゝ首をうなだれた

處女のその様の様にやはらかい感觸をもつのが常であるが、太古の姿その儘の景觀の中に静かに寂しく湛える尾瀬沼は一層神祕的である。波なき水の面、燧の影も心躍らずに朝な夕なの空の緑、紅、紫、限りなきうまるの夢の燃えたつ様な景色は自ら祈る心が湧いて来る。

此の沼は往昔鷺ヶ沼と稱し標高一・六六五米周囲一一・七八軒、面積一・六七〇方軒、深き八・七米、水色八號——九號、透明度六・五米、水生植物は比較的簡單で殊に南岸は森林が直ちに湖岸に迫つてゐるので、濕原樹林交互に接する北岸に於て群落變遷の道程や變化の趣を味ふことが出来る。魚族は寒暑の變化を恐れぬ嘉魚、鮒などが多く近頃鱒の放養を始めてゐる。

沼の南岸は樹木鬱蒼と生え茂り北には燧の雄姿高く聳え山澤の間には廣々とした濕原が續いて居て初夏の候には無數の草花一時に咲き揃ひ實に美しい高山の景色を見せる殊に鏡の如き静かな湖面に夕燒雲が映えて山や森や雲が其の影を倒さに

宿してゐる様などは形容の辭も出ない程の絶景である。附近の小沼、治右衛門池は清客閑寂な小湖である。

尾瀬の濕原 尾瀬の濕原は尾瀬沼のほとり大江川の沿岸や淺海、沼尻平などにその美しい景觀が覗はれるが尾瀬ヶ原——俗稱尾瀬ノテーラに於て尾瀬の自然美は實に惜しみなく發揮されてゐる。初夏の候一度足を尾瀬ヶ原に踏み入れたものは何人も終生忘れる事の出来ない美觀に打たれるであらう。

巒山の空翠此の大平原を圍繞し、濕原に咲き誇る百花の上に漂ふ陽炎、緩やかに吹き渡る高原の風、悠にして大、優にして靜、——自然界の萬物は何れも神動的表現であつて神は凡ての物を作り凡ての物に存す——と言はれてゐるが全く神韻縹渺たる風光に魅了される。

尾瀬ヶ原は沼尻平より樹海を縫ふこと約四軒、燧ヶ嶽の西南、至佛山との間に展開する長徑十軒短徑四軒に達する高原地域で海拔一・四〇〇米乃至一・五〇〇米

原は田代と稱する濕原地帯と雜木の繁茂する森林地帯とより成り尾瀬平の名は田代に於て代表される程尾瀬特有の風致を備へてゐる。歩めばゴム板上を踏む思ひあらしめる水苔層の濕原は矮小な高山植物の群落で大小無數の池澮が點在しその間を幾條かの川や溝が迂曲蛇行してゐる。田代群も大小無數で中にも上田代、中田代、八木澤田代、六兵工田代、赤田代、ぬう岩田代、泉水田代等が主なるもので是等の田代は何れも永久的濕原で地形の成因、植物の生態等に面白いものが多し。その周邊に連る濕地は一時的濕原でそれが山際近くなれば鬱蒼たる森林地帯に變じ千古の大森林其儘である。尾瀬の大景觀は此の濕原地帯に於て遺憾なく發揮せられ、自然美の表現に於て、科學的諸觀照の殿堂として、神の攝理、雅量の下に創意せられたる尾瀬平の風光は眞に天下の絶景である。

尾瀬の山々

1、燧ヶ嶽 尾瀬の北西に聳える死火山で標高二・三四六米東北第一の高山で全

山黒檜唐檜等の針葉樹に掩はれ登るに随ひ奇岩、洞窟交々到り熊笹匍松生ひ茂り風雨にさらされ雲霧に洗はれる土砂岩石は清淨そのものである。頂上東寄りに峙つてゐるのは粗マナイタクラ 嵩で最も高きは柴安シバヤク 嵩といひ北方にシボ澤、五郎右衛門ガケと稱へる大絶壁を作り東には熊澤田代、太郎兵衛窪や實川に面して賽の河原、小地獄等の勝地がある。大小幾つかの火口は往昔活動の跡を留めナデツ窪から尾瀬沼堰止の様など歴然たるものがある。四顧すれば東は赤安、黒岩、帝釋から日光の山々、西南には至佛、笠科武尊、赤城、妙義より近くは越後の山々北方には會津駒、中門の麗姿を睥睨し、晴天には遠く富士の靈峰を仰ぐことが出来る。眼下に展開する尾瀬沼、尾瀬平裏燧の景觀は夢にも見得ぬ蜃氣樓ともいふべきものであらう。

2、至佛山 怪峯至佛は尾瀬が原の風景に一段の光彩あらしめる存在である。標高こそは燧に及ばないが岩石の峨々たる點に於て、高山植物の豊富なる點に於

て、悠々迫らず川上川と猫又川の彼方に屹立するあの山貌こそは尾瀬に缺くべからざる一風景である。

3、尾瀬を繞る山々

大江山——沼山峠を登りつめてホット見晴らす尾瀬の風光に得も言はれぬ快感を覺えさせるものは處女の曲線美のその様なならかさをも以て尾瀬湖畔までつゞく大江山の優姿である。

檜の高山、皿伏山、煤ヶ峯に景鶴山何れも尾瀬風光の要素である。

尾瀬の鑛泉

燧ヶ嶽の周邊には所々に鑛泉が湧出してゐる。しかしながら尾瀬一帯は濕原である爲にその臭氣、水色にそれと知るのみで水溫が低く如何ともすることが出来ない現状にある。その代表的なものは赤田代にある尾瀬溫泉で外傷、神経性諸病、泌尿及生殖器系諸病、腺病質諸病によろしく星段吉氏經營の下に登山者に唯一の

オアシスを提供してゐる。探勝登山の客も殖え設備が完成すれば尾瀬名所の一となるであらう。

尾瀬の處女林と高山植物

尾瀬沼―燧―至佛―尾瀬ヶ原―一帯に分布する植物景觀は邦内稀に見る豊富さで殊に寒帯より侵入してゐる南限植物と温帯の遺物北限植物の入り亂れて蕃殖しつゝある様は學界の至寶とされてゐる。尾瀬原を中心として繁茂する植物の主なるものはシラカンバ、ダケカンバの如き樺木屬闊葉樹種でシホヂ、トチ、オホバボダイジュ、アツキナシ、ミヅナラ等を混じ草木としてはミツバセウ、ミツガシハヤマトリゼンマイ、ギヤウジヤニンニク、ソバナ、オニシモツケからオホバタチツボスミレ、ナガバノマウセンゴケ、マイツルサウ、ゴゼンタチバナ、チマキサ、ヒメシダ等で山地は黒檜、唐檜、梅、ハヒマツ等の針葉樹で樵は樵平の名の起る程一面に密林をなして繁茂してゐる。高山植物や各屬種に渉る詳細は茲には

省略する。

主なる景觀

1、天下の奇湍、平滑の瀧と三條の大瀑布

沼尻川の下流に平滑の奇觀がある。瀧は幅百米餘長さ六百米以上にわたり這ふともなく、咽ぶともなく、岩より岩に送り、銀蛇の銀鱗、玉を抱いてたゆるなきが如く、水晶の時雨を絃樂に聴くの思あらしめる。

平滑を過ぎて下ること一籽餘り、天にも届けと萬雷の響と共に直下百二十米の瀧壺に玉と碎け霧と散じてたぎり落ちる大瀑布こそは三條ヶ瀧である。まことや三條は峽谷只見の名に相應しい名瀑布で、豪壯そのものゝ奔濤を躍らすよと見る間もなく幾十丈の直下、全姿を叩きつけるその男性的な感激に思はず身悚えする。まして訪ぬるものとてもない此の深山に見るもの悉く俗塵より拭はるゝ中に、たゆみなくたぎり落ちる此の名瀑布をば心なく観ることは出来ない。

2、神苑的存在の燧田代

三條の觀瀑を了へて約一時間程シホ澤の空堀を越え起伏する林道を辿ること四軒ばかりで緩傾斜の神苑さながらの燧田代——横田代、上田代、三池田代——に出る。檜枝岐口七入よりすれば約二時間半樺平の密林を過ぎて此處に出るのである。燧田代は裏燧のなだらかな裾野で南に燧の大森林帯を仰ぎ北西遠く只見の峡谷を隔て、越後の山々を見晴らし前面には大杉嶽、駒ヶ嶽の優姿を控え、緑絨を敷けるが如き濕原には高山、高原特有の樹生が人爲の何物をも加へない神々しさで生え茂り清淨な田代と相俟つ雄大な眺望こそは山岳美の極致である。

70

3、口碑に残る銀山平

銀山平の總稱の下に口碑に残る白峰銀山はその昔長屋千軒の繁昌を見せたことも一場の夢と化し、今は僅かに廢坑の跡に其の面影を留めるばかりである。銀山平に達するには三條の大瀧から只見の峡谷を下り鎧冨の勝地を経てこゝに至るか、

七入口、免平から降るか、大津岐越駒ヶ嶽越をするのである。越後口よりは小出驛から大湯迄自動車、それより身拵へして技折峠を越え、八海の風寒しといはれる北又川に沿ふて下り、只見の流域須原口に出てこゝに達するのであるが、仲なかの難コースである。銀山平は越後會津兩岸の平潤地で銀山の榮えた頃は非常な殷賑を見せた中山の歡樂郷も今は鄙びた土地の人たちの原始的生活や一帯の風光美などが旅行者に印象づけるに過ぎない。僅かに浪拜温泉や湯の又温泉などが旅情を慰めてゐる。最近銀山や鷹の巢等に勇敢な開墾が始められ新潟縣でも農道場を開設する等それ〴〵觸手が伸ばされ、檜枝岐村では大津岐に分教場を設置し開墾者子女の教育に便宜を與へる事になつたから、銀山平の復活も期して待つべきものがあらう。

4、其他尾瀬を中心とする景勝地としては

實川澤の八景

71

樺平の原始的密林

鎧嶺の奇勝

富士見峠眺望

菖蒲平の美觀

片品川溪谷の美

鬼怒沼林道の爽快

小沼、治右工門池の探勝

等から四季折々の眺め、いつ如何なる場所に於ても飽かない美景が數限りなくある。

尾瀬の山小屋

長藏小屋——尾瀬の自然美保護と尾瀬開拓の爲に單身湖畔に立籠つた平野長藏氏の創設で、今は嗣子長英氏が裕々百人を收容し得る山岳ホテルを増築し探勝者の便宜を圖つてゐる。附近縣道の傍、唐檜の密林中にキャンプ宿營地まで設定

してあるし營林署のヒュッテも設けられてある。

檜枝岐小屋（彌四郎小屋）收容人員四十人尾瀬ヶ原下田代口に在り。

温泉小屋（段吉小屋）收容人員二十人三條ヶ瀑口赤田代に在り。

山の鼻小屋（片品村設）收容人員十五人至佛山の麓鳩待峠口に在り。

東電社宅（懇望すれば宿泊に應ず）

景鶴澤の東端沼尻川のほとりに在り。

結　　び

人里遠く離れて幾十軒、山竅にして而かも水郷、高原にして而かも濕地、千古の儘の自然、老木矮樹をくゞり千草八千草踏みしだきつゝ、静寂の天地、清淨の風物、優雅なる萬象に接する時、誰かその美觀に感激せざらん。仙郷？ 天國？ 尾瀬、燧こそは更新再生の靈氣を養ふべく神の創り給へし穢すべからざる天恵地である。

以　　上

附〔国立公園〕 尾瀬小唄

(一) 尾瀬

尾瀬の景色は太古の姿

四季の眺めは天下一。

日光結構で歸つちいやよ

尾瀬のけしきはなほ結構。

キャンプお宿り意義あるものよ

やがてホームの豫備知識。

お出でくよ一度はおいで

尾瀬の眺めはよそにや無い。

(二) 尾瀬ヶ原

青い尾瀬平そらに歩きや

主を招ぎの花が咲く。

(三) 尾瀬沼

うらめ美め尾瀬沼守りの

つがひはなれぬ女夫鶴

(四) 燧ヶ嶽

清い姿の燧ヶ嶽に

君と二人で登りたい。

(五) 沼尻平

花の御苑オニハの沼尻平

蕎麥でふくれりや腹つゞみ。一

(六) 檜枝岐小屋

西と東に別れた主に

めぐり逢ふたる彌四郎小屋。

(七) 長藏小屋

旅の疲れもさらりと忘れ

寝物語りの長藏小屋。

(八) 温泉小屋

ぬるい温泉でも情のあつい

主と二人は何時までも

(九) 平滑の瀧

辛い旅路も平滑すぎて

瀧と結ばる二人なか。

(一〇) 三條の大瀑布

思ひ天までとどけとひびく

谷をゆるがす三條瀑。

(一一) 燧田代

神の御苑の燧の田代

穢すまいぞいいつまでも。

(一二) 駒ヶ嶽

わしが思ひはお花の畠

眺めたいぞい駒ヶ嶽。

昭和十二年八月二十五日印刷
昭和十二年八月三十日發行

發行所

福島縣南會津支廳

福島縣南會津郡田島町

著作
發行者兼

豬股留八

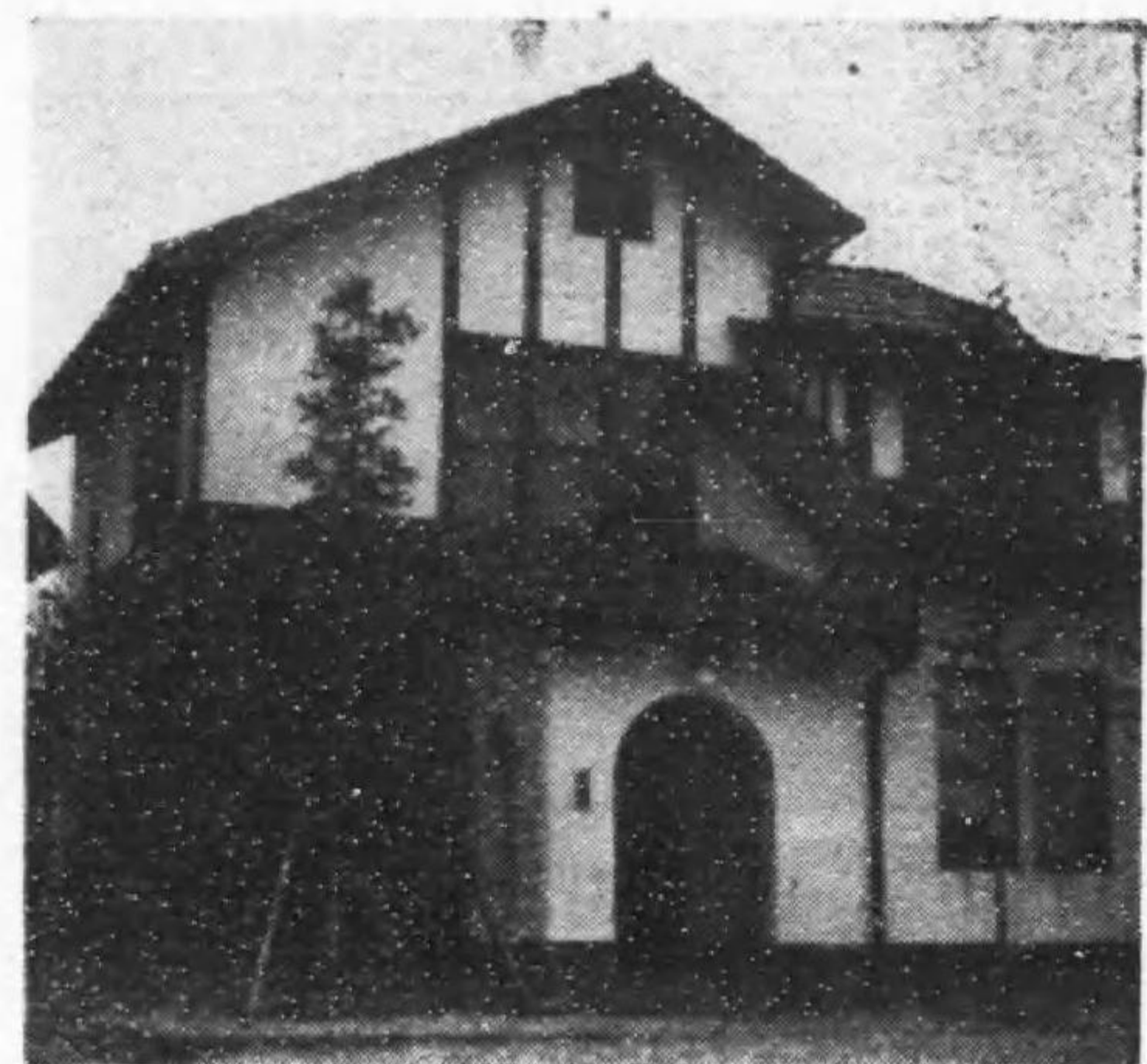
印刷
刷者所

東京市麴町區飯田町一ノ二

株式會社 青雲堂印刷所
代表者 葛西庸次郎

祝南會津郡案內誌出版

南會津郡內郵便局長一同



會津田島町

內科
婦人科
高橋醫院

電話四〇番

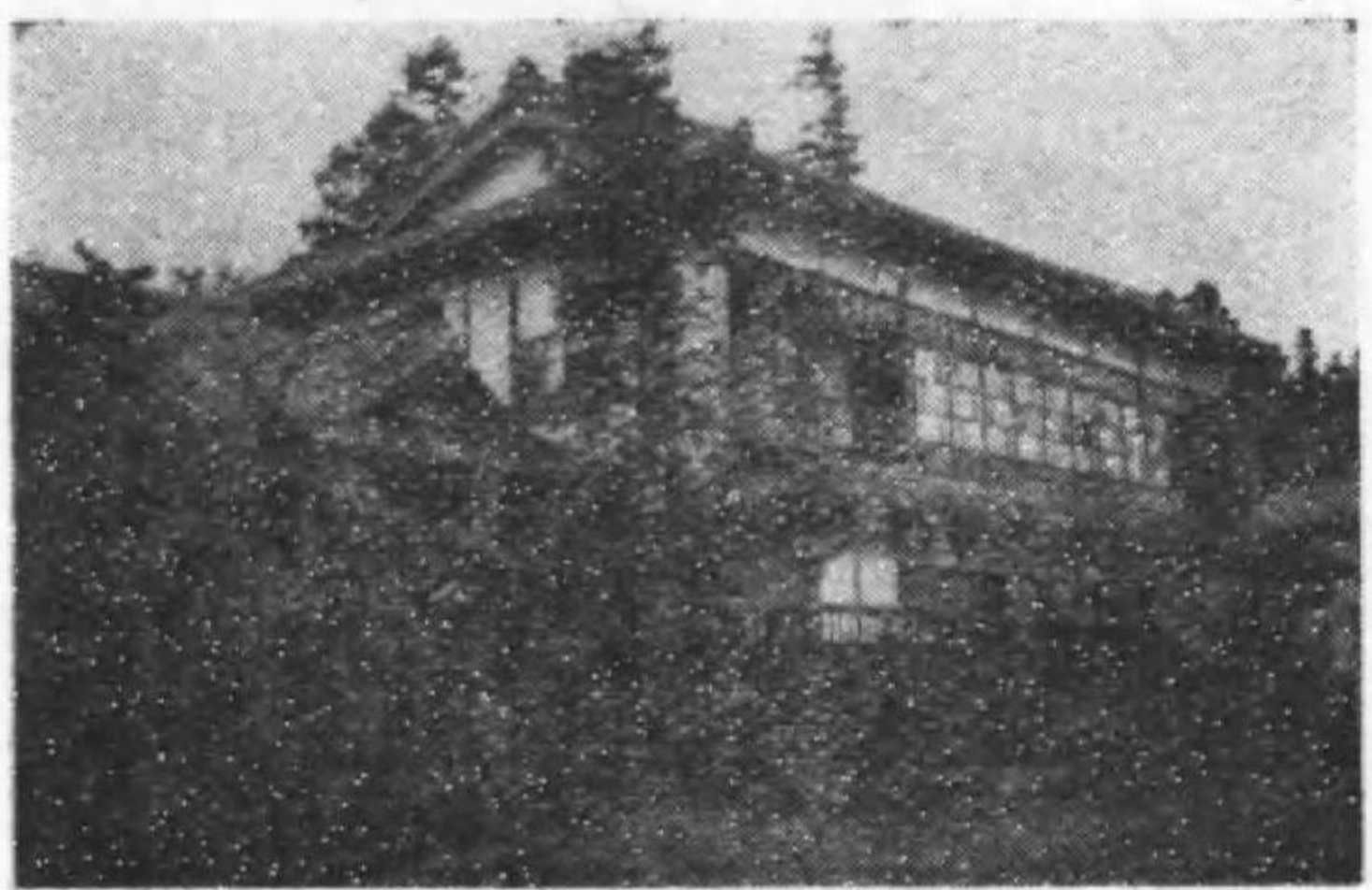


會津田島驛前

鐵道省
第一師團
須賀守府
東京營林局
南會津支廳
御指定
旅館

丸山館

電話一八番



會津田島町

割烹梅壽館

電話二一番

會津田島驛前

鐵道省
指定



會津田島
運送
合資會社

代表者 湯田儀四郎
電話二七番

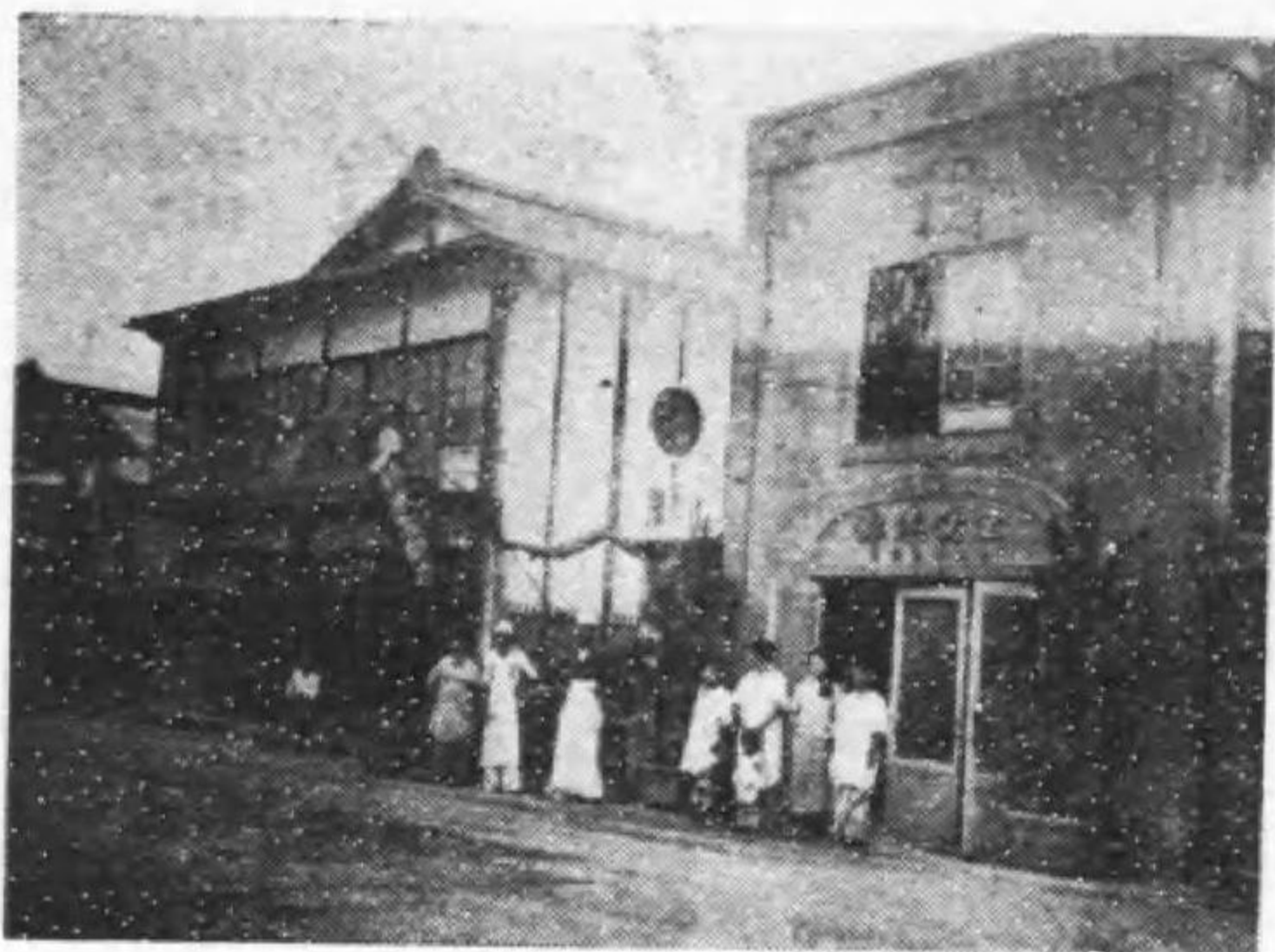
會津田島町

食料品
用品
雜貨
一切



商店

電話五二番



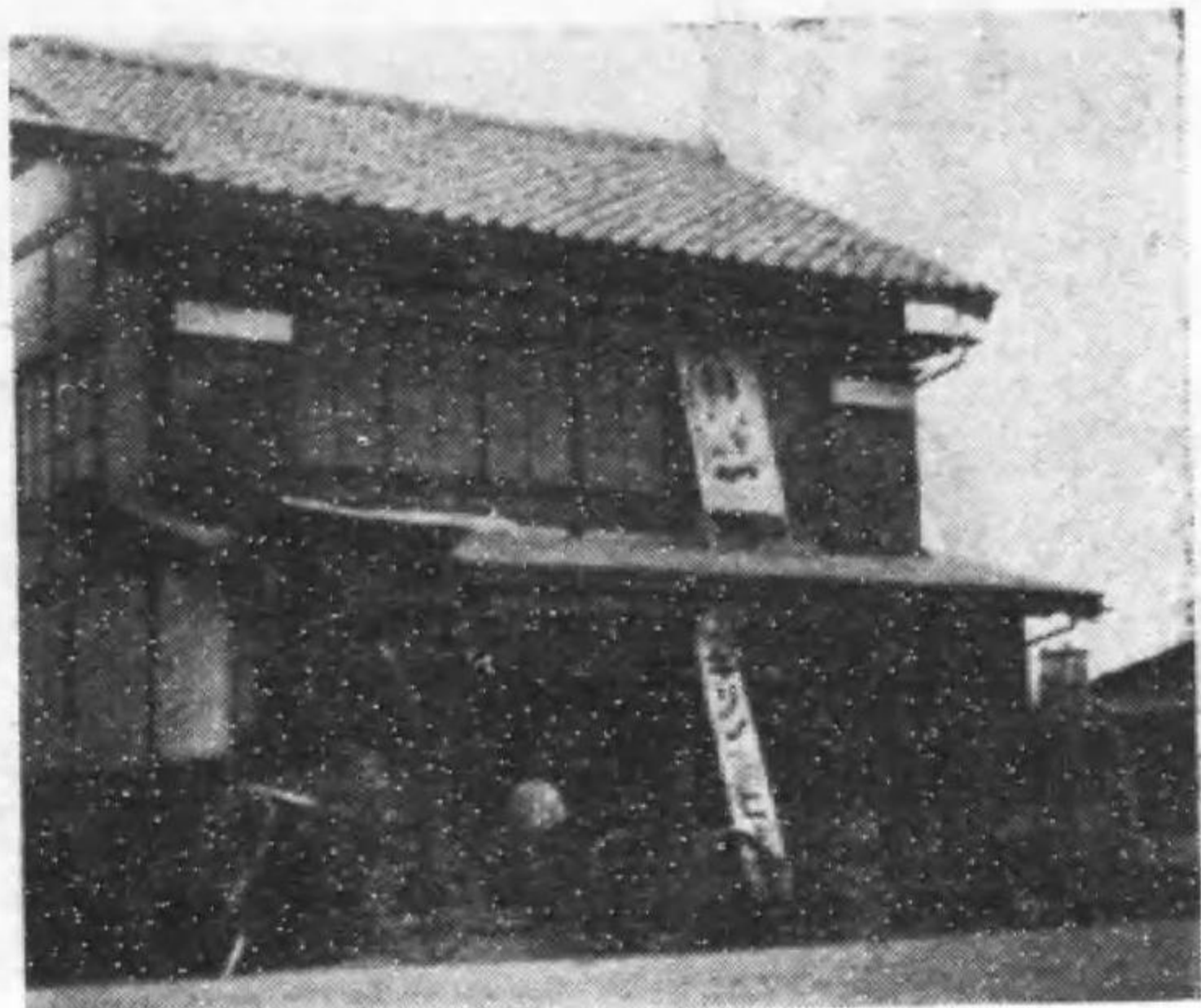
福島縣南會津郡田島町
字谷地甲七番地

冬季毛皮
革靴
食肉
商 鈴木猪太郎

電話 二八番
電略(スエ)又ハ(ス)

御料理
鈴木食堂

電話 二八番



會津田島町西町五五

山科屋

味噌醬油
清酒礦油
木炭凍氷
分 小久保重治

電話 三一番
電略(ヤマカ)



御入浴御隨意

伊勢林

會津田島支廳前
電話 四七番

▽名所愛宕山の眺め良き御座敷△

建康清且美
中外頌聲傳

國權

ンケツコ

果保南山壽
把持酒國權

福島縣田島町

東京火災保險株式會社
岩代田島代理店

一吉酒座 細井新吾商店

電話 三六番
振替東京八三三六番

銘酒

暖山

マヤギシ

名聲

布四海

會津田島町

釀造元

三京屋猪股角平

電話 一五番

振替東京一九七三六番

旅

御

料

館

理

宴

會

大

場

廣

間

會津田島町

田島ホテル

鈴木又右衛門

電話十一番



會津田島

辦天座

會津若松榮樂座

長谷川興業部直營

會津田島町

土木建築請負業 福島善作

電話一三番

南會津郡田島町

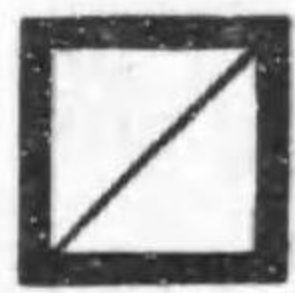
南會津林產販賣利用組合

組合長 阿久津旭

電話 三九番

會津田島町東町

吳服太物
洋物
荒物
米穀



柵屋商店

電話 三八番

振替東京四五〇四九番

福島縣南會津郡田島町

鐵道省指定

旅館 和泉屋

電話 四九番

會津田島町

甲種

火藥商

渡部太郎八

會津田島町

木

材商 小林喜作

福島縣田島町

內外科
皮膚科

長谷川醫院

長谷川 亨

電話三三二番

振替仙臺五六五四番

福島縣南會津郡田島町

藥品賣藥
洋酒罐詰
米穀肥料

百貨店

樋口彌作商店

電話五番

振替東京七二二九一番

鐵道囑託醫 藤田醫院

南會津郡田島町
電話八番

會津田島町

菓子商 岩代屋

電話三五番

會津田島西町

食堂 志づ正

電話六七番

福島縣南會津郡

田島町甲三五九



會津洋樽材
合名會社

渡部喜之介

電話五三番
電略(アタル)

田島町西町

(會津線)

桐材履物 阿久津
木炭家具 幸三商店

南會津田島町

材木商 余木村虎吉

電話四三番

福島縣會津田島町
支廳前



小寺洋服店

福島縣會津田島町

ピリヤード
硝子鏡
理髮店
一久
犬山
新三郎

會津田島町西町

流行の指針

迅速丁寧



サトウ洋服店

洋服の御用は是非サトウへ

岩代會津田島町

海陸物産

荒物肥料

委託賣買

一星兄弟商會

電話 五四番

發電略 (カネイチ)

又ハ (カ)

受電略 (アイフタチ)

振替東京 (コカネイチ)

一七一八一番

會津田島町

關根製材所

福島縣南會津田島町

停車場通角

洋品小間物
雜貨類

室井悅藏

井桁屋商店

福島縣田島町

稻富齒科醫院

電話 一 番

福島縣田島町

本名齒科醫院

吳服
太物



渡部保雄

福島縣南會津郡田島町

電話 五七番
振替東京六七四三九番

福島縣南會津郡田島町



櫻木吳服店

櫻木正一

南會の實庫拓開
木材商



一條組東京木場

一條兵四郎

(電話田島一八番)



丸若組東京木場

若目田與一

(電話田島一八番)



與志本組信州羽黑

與志本合資會社

(電話田島一八番)

枕木 木炭 問屋



信田組新潟沼垂

信田孫助

(電話田島一八番)

會津田島町

味噌醬油
清酒
雜貨
荒物

三伊勢屋商店

渡部 竹治

電話四一番

各種自動車部分品
ガソリン 販賣
木炭 移出

會津田島町

田島モーター商會

渡部 喜八郎

電話六八番

修理工場 田島町新町

南會の寶庫開拓
木材商

札幌市外琴似 奥野菊一

(電話田島(呼)四四番)



木戸組新潟三條

木戸松次郎

(電話田島一八番)

鹽見組新潟沼垂

鹽見雄次

(電話田島一八番)

以上出張所

福島縣南會津郡田島町

(5ろは順)

和洋御料理

會津田島町西町

忍川

電話二番

御料理

會津田島西町

辨天

電話四六番

福島縣南會津郡田島町

保
證
責
任

田島信用購買販賣組合

電
略
(タ
シ)

南會津郡田島町

田部原耕地整理組合

會津田島町谷地十番地

湯 田 醫 院

電
話
五
八
番

會津田島町支廳前

三光館寫真店

南會津郡田島町永田

木炭 雜貨 貨物自動車業
中 湯田 卯平

電話五六番

福島縣南會津郡田島町

木炭移出 地方物産 勝栗製造
商 平

村山半四郎

電略(ハシ)

全廻轉部防水式 山口の自轉車 代理店

田島町西町

小島商店輪業部

貨物運送業

親切丁寧

會津長野驛前

長 小島運送店

會津田島町長野

吳服太物 洋物小間物 荒物雜貨

や

小島屋商店

精米と製粉の御用は

迅速丁寧の

顧客本位

や 小島電力精米所へ

會津田島町今生

會社 芳賀寅八幡屋
商店

電話五一番

岩代田島町仲町

玉星理作

電話四五番

會津田島町支廳通り

百田島百貨店

電話六四番
振替東京三〇〇三番

各種發動機、モートル類
動力農具一式、製材用エ
ンヂン、修理と調製

南會津郡農會御用商

農室井農具商會

會津田島町
電話田島六九番

會津特産
雜木細工
林産加工品、汁杓子、宮島類

卸問屋
三酒新商店

渡部平次郎
會津田島町

福島縣南會津郡田島町西町

清酒
食料
燃料

松本支店

電話(呼)四四番

福島縣南會津郡旭田村鹽生

不井中屋吳服店

電話 振替東京一六五五番

福島縣南會津郡旭田村

檜原耕地整理組合

福島縣南會津郡旭田村鹽生
(會津線檜原驛前)

木材商 眞丸眞商會

電話檜原二〇番
電略(シン)又(シ)

南會津郡旭田村鹽生

旅館 萬屋

弓田ヤス

南會津郡旭日村大松川

旭

印

最上醬

油

天風
一味
下雅
品良

幸助改名

佐藤量平

福島縣南會津郡

江川村湯ノ上

鐵道省指定運送取扱人
國際通運株式會社取扱店



湯野上運送會社

福島縣(會津線)湯野上驛前

電話(ツ)又ハ(〇)ツ

南會津郡旭田村鹽生

御料理
八千代軒

佐藤チヤウ

電話二一番

木炭 奧村材木商會木炭部

福島縣南會津郡旭田村
二岐山事務所

木炭商 **大** 山口屋商店

星 豐次
南會津郡江川村小野下

木炭商 渡部辰平

南會津郡江川村蘆ノ原

米穀雜貨
麴製造
木炭問屋
其他官製品

商 **長**

三浦信兵衛

長門屋號

福島縣南會津郡江川村湯野上溫泉
會津線湯野上驛

木材商 玉川圓次郎

南會津郡江川村彌五島
電略(タマ)又(タ)

油屋旅館 木崎政次

木炭木地商 南會津郡檜原村榮富

福島縣南會津郡江川村

日本電氣工業株式會社

湯野上發電所

會津江川村

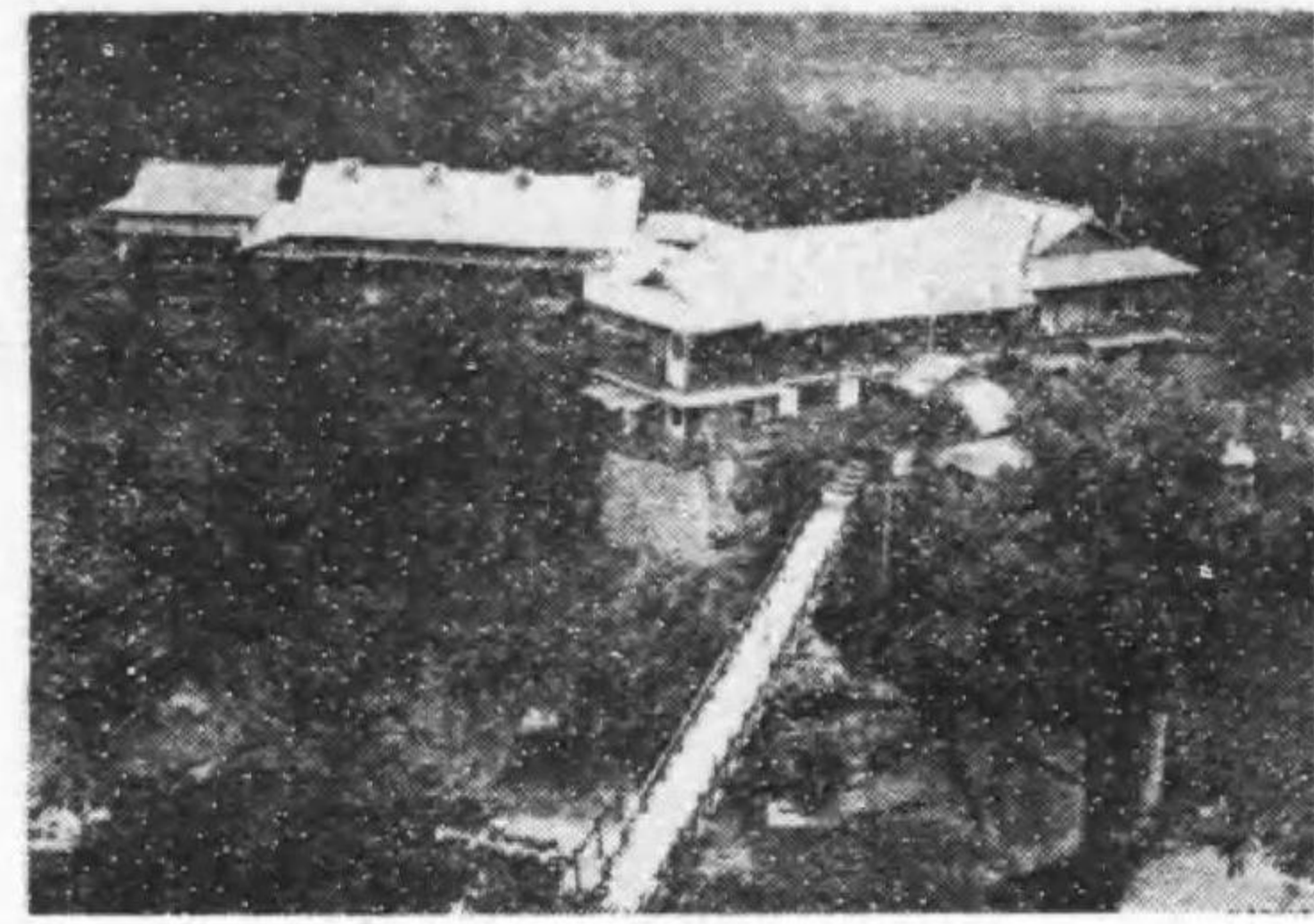
湯野上溫泉

內湯 清水屋旅館

眺望

絕佳

貸切自動車部



會津江川村
 湯野上温泉
 鐵道省指定 内湯
新湯旅館

會津檜原驛前

旅館聚星館

電話一九番

福島縣南會津郡江川村

湯野	料理	西支洋食	料理	湯野
和洋	御料理	御料理	御料理	和洋
糀屋	小松屋	廣瀬屋	廣瀬屋	糀屋
食	食	食	食	食
堂	堂	堂	堂	堂
あたりや				

會津若松市北小路町

木炭移
出問屋

今

赤城良藏
商店

電話四六四番
出張所 檜原驛前

南會津郡檜原村

吳服商 **大三星** 三左衛門
太物

會津檜原驛前

佐藤齒科醫院

南會津郡檜原村

保證
責任

檜原信用

購買
販賣

利用組合

組合長 大竹藤太郎

福島縣南會津郡檜原村

豐成耕地整理組合

南會津郡檜原村

保證責任
南會津煙草耕作購買組合

會津線檜原驛前

あづま屋旅館

電話 一一番

福島縣南會津郡

檜原料理屋飲食店組合

福島縣南會津郡檜原村
豊成(會津檜原驛前)

三伊勢平商店

渡部平三

電話 六番

振替仙臺三三三番

電略(イセヘイ)

木炭移出商

商標  白井源一郎

南會津郡檜原村榮富

福島縣會津線檜原驛前

 河合運送店

河合貢
電話 三番

福島縣南會津郡
 (會津線) 檜原驛前
 鐵道省指定運送取扱人
 國際通運株式會社取引店
通 檜原合同運送
 株式會社

電話一五番

福島縣南會津郡
 檜原驛前

本 大星商會運輸部

電話一二番
 電略(○ホシ)又(オ)

福島縣南會津郡檜原村豊成
 萬屋
 吳服 太物
△ 渡部龜吉支店

電略(カメ)
 振替東京九六四六

木炭移出商

商標 **△** 渡部幸一郎

南會津郡檜原村榮富

木炭、木地商

商標 **△** 芳賀沼清八

南會津郡檜原村新開